



文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」（平成 27 年度採択）  
事業名称「岐阜でステップ × 岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」

地域で活躍する「地域活性化リーダー」教育プログラム

平成 29 年度

# 成果報告書



中部大学

（事業協働機関）



## はじめに

中部大学は、文部科学省の「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（24年度採択）、及び「地（知）の拠点整備事業」（25年度採択）における実績を踏まえ、平成27年度より「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に参加し、建学の精神「不言実行、あてになる人間」を信条として、地域社会の活性化と発展に貢献できる人材、「地域活性化リーダー」の育成を目指して様々な事業を展開しています。

このCOC+事業は、岐阜大学を主管校に、本学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学が参加し、「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」と称して、岐阜県を対象に、岐阜県、（一社）岐阜県経営者協会、（株）十六銀行、（株）大垣共立銀行、（株）マイナビと協働して行っている教育事業です。

事業の目的は、岐阜県内企業のニーズと魅力を理解し、地域に定着して地域産業の担い手となり、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指すことですが、本学に求められている具体的目標は、岐阜県内への就職率の10%アップです。この目標と合わせて、より広く「地域活性化リーダー」の育成という教育目標を達成するために、本学では、COC地域連携教育研究センターにCOC+推進委員会を設置し、その下に教育研究会とキャリア部会を置いて、事業を実施しています。

各部会では、COC事業における「地域創成メディエーター」の育成と同様に、正課教育の「学ぶ」と、正課外教育の「動く」の両者から、人材育成のための教育プログラムを構成し、活動を行っています。「学ぶ」では、キャリア教育科目、特別課題教育科目、リスク予防管理士指定科目の中から3単位以上の取得を求めています。「動く」では、COC+に参加する5大学共通プログラムである企業見学会、サマースクール、岐阜企業展、企業向け成果発表会に加え、本学独自のPBLぎふゼミ、フィールド活動ぎふ、地域活性型インターンシップ、企業現場教育の活動から必須を含む5つ以上の活動参加を求めています。いずれのプログラムにおいても、予定した活動の着実な実施と学生の参加が概ね得られていますが、「地域活性化リーダー」の育成につなげる成果検証とそれに基づく改善は、これからの課題と考えています。

本成果報告書は、平成29年度において、本学で実施したCOC+事業の活動と成果をまとめたものであります。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC+事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の活動に活かしていきたいと考えています。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年3月

中部大学 COC地域連携教育研究センター長

松尾直規



# -目次-

はじめに

## 1. 概要

- (1) 概要図 . . . . . 1
- (2) 運営体制・メンバー表 . . . . . 11

## 2. 活動報告 <学内プログラム>

- (1) 外部特別講師講義 . . . . . 15
- (2) 特別セミナー . . . . . 17
- (3) PBLぎふゼミ . . . . . 21
- (4) 企業現場教育 . . . . . 53
- (5) フィールド活動@ぎふ . . . . . 77
- (6) 地域活性化リーダーポスター発表会 . . . . . 79
- (7) 学内企業説明会「岐阜県企業の日」 . . . . . 81

## 3. 活動報告 <5大学共通プログラム>

- (1) サマースクール . . . . . 83
- (2) ぎふCOC+事業推進コンソーシアム成果発表会 . . . . . 89
- (3) 岐阜県内の優良企業研究セミナー . . . . . 91



# 1. 概 要

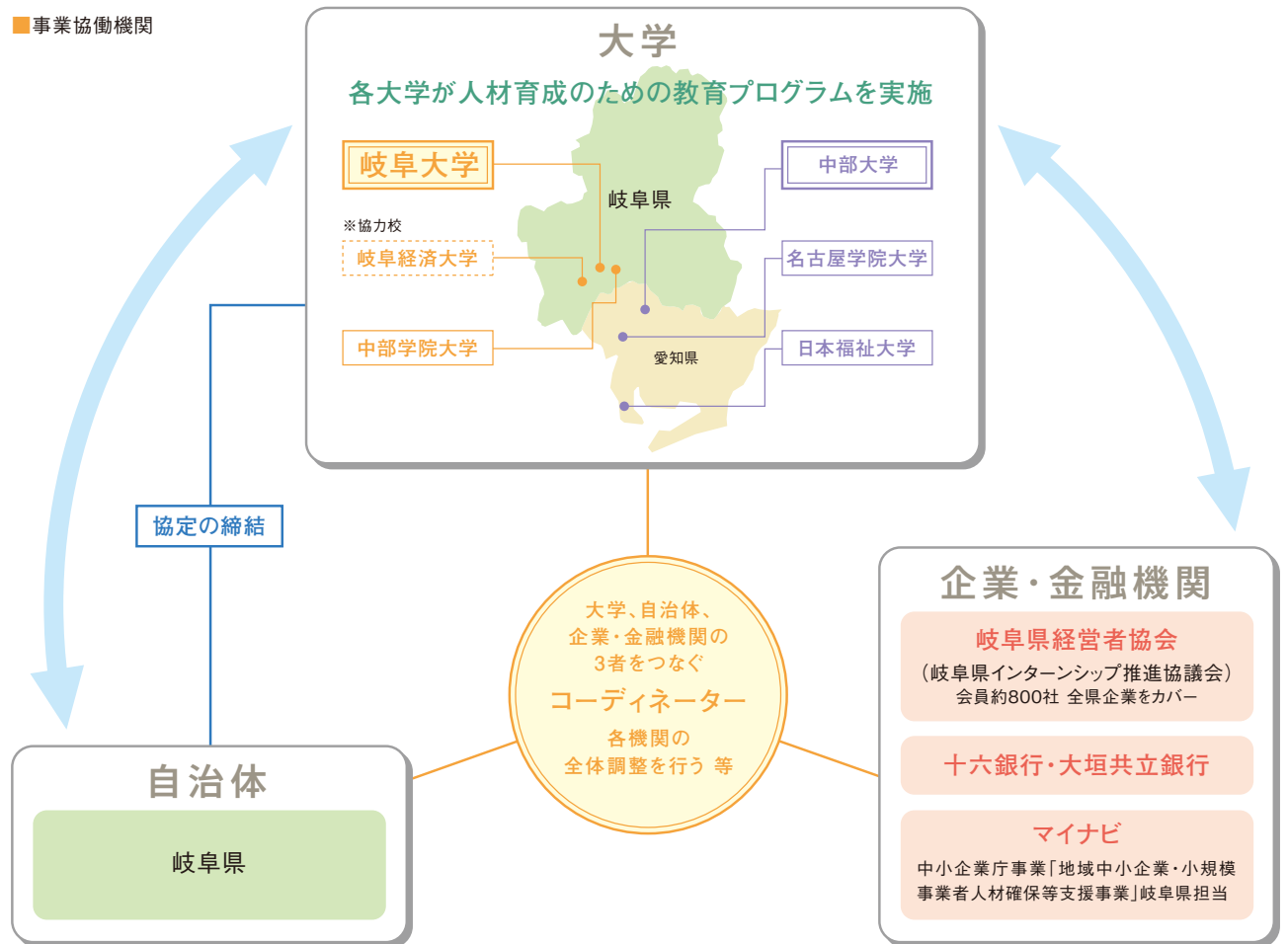
## (1) 概 要 図





## 図解で分かりやすく！COC+事業

■事業協働機関



愛知県内の大学と岐阜県が協働。  
岐阜県内の雇用創出、Uターン就職率向上を目指す。

若年層人口の都市部への一極集中を解消。

これからは  
地域がおもしろい!

特集

地域で活躍したい人必見!

# COC+事業 プラス に取り組もう

## 「地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)とは?

文部科学省による事業で、都市部への一極集中、地方との経済格差拡大を解消しようと地域で活躍する人材の育成、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的にした事業です。

本学に隣接する岐阜県では、特に進学時や就職時に若年層の人口流出が問題となっており、本学は岐阜県からの進学者も多いことから、岐阜県内の大学、地方公共団体、中小企業などと協働して地方(岐阜)の魅力向上につながる計画を策定。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に岐阜大学を中心とした事業機関と協働した取り組みを申請、採択されました。

このCOC+事業により、本学は学生にとって魅力ある就職先を創出し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムを行うことで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指します。

### 事業名

岐阜でステップ×岐阜にプラス  
地域志向産業リーダーの協働育成

### 事業実施期間

平成27年度～平成31年度

### 事業協働機関

中部大学、岐阜大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、一般社団法人岐阜県経営者協会、株式会社十六銀行、株式会社大垣共立銀行、株式会社マイナビ

● 地域活性化リーダー  
資格取得のモデルケース

受講はいつからでも、どこからでもOK!  
必須単位の取得順序に決まりなし!  
それぞれの必要項目を満たした時点で  
認定申請が可能です。

〈例〉A君の場合、2年生から受講スタート。



1年生

- 「社会人基礎知識」(春学期)2単位 **選択必須**
- PBLぎふゼミ(8月下旬・2日間) **必須**
- サマースクール(9月初旬・2泊3日) **必須**
- 「持続学のすすめ」(秋学期)2単位 **選択必須**
- 企業現場教育1回 **選択必須**

3年生

- 地域活性化型インターンシップ **選択必須**
  - 企業向け成果発表会(2月末頃)1回 **必須**
- 地域活性化リーダー認定**  
※岐阜企業展への参加を前提に認定します。
- 就職活動開始(3月初旬～)
- 岐阜企業展(3月中旬) **必須**

就職活動で  
資格を生かそう!

4年生

卒業・就職

- 「学ぶ」の科目から3単位以上選択必須
- 「動く」の活動から5企画以上の参加必須
- PBLぎふゼミは参加必須

■ お問い合わせ先

中部大学 地域連携教育研究推進部(16号館3階)  
電話 0568-51-1763 Eメール plus@office.chubu.ac.jp  
http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/

キャリア教育科目	●自己開拓(1単位) ●社会人基礎知識(2単位)
特別課題 教育科目	●地域共生実践(2単位) ●持続学のすすめ(2単位) ●地域の防災と安全(2単位) ●人類と資源(2単位) ●地球を観る(2単位) ●グローバル環境論(2単位)
リスク予防管理士 指定科目	●安全工学(2単位) ●バイオ産業リスク予防学(2単位) ●食品リスク予防学(2単位) ほか

- 企業向け成果発表会(大学連携) **必須** ●岐阜企業展(大学連携) **必須**
- サマースクール(大学連携) **必須**

選択必須

- 企業見学会(大学連携)
- 企業現場教育

選択必須

- 地域活性化型インターンシップ  
(インターンシップA+B 岐阜県内対象)
- フィールド活動@ぎふ

●課題解決型のゼミナール

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が地域社会(岐阜はもちろん、自分の出身地など)の中で自分の持ち味を發揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習。

地域をけん引する次世代のリーダーとして  
自ら考え行動する力を身につけた学生に認定

※課外活動への参加、PBLぎふゼミへの参加申し込みは  
地域連携教育研究推進部まで(16号館3階)



企業見学会(大学連携)での会社説明



## 中部大学のCOC+事業への取り組み

### 地域で活躍する

### 「地域活性化リーダー」を育成します

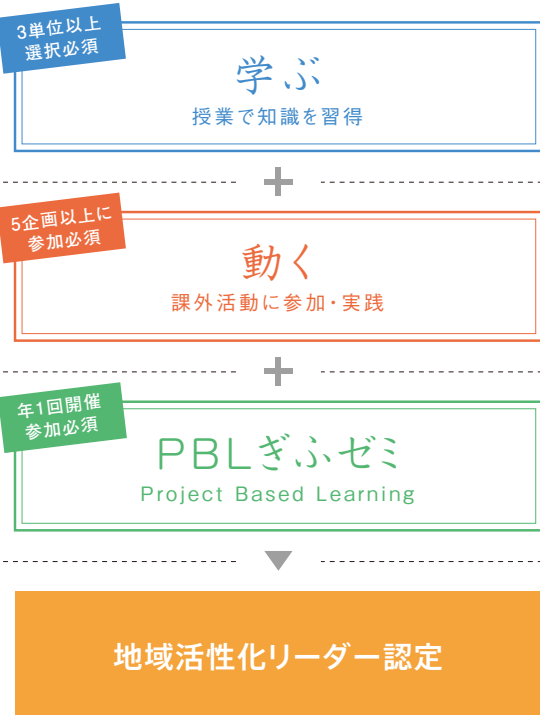
本学は、他大学・自治体・企業・金融機関と協働して岐阜県内の企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにあった人材、「地域活性化リーダー」を育成します。  
地域活性化リーダーは、岐阜県をモデルに地域の課題を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。

岐阜県がモデル地域ですが、地域を持つ課題は全国的に共通する点も多いので、ふるさとにリターン就職を考えるすべての人におすすめです。

### 就職活動にも役立つ！

### 地域活性化リーダーになるには

①所定の単位を修得し、②企業現場教育などの課外活動と③PBLぎふゼミ(Project Based Learning 課題解決型のゼミナール)に参加することで、地域活性化リーダーの資格を取得することができます。



### 課外活動 の 実例

企業現場教育での  
高速道路施工現場見学



企業での地域活性化型  
インターンシップ

### こんなキミに おすすめ

- 自分の生まれた町が好き。
- 就職はふるさとでしたい。
- 地域活性化に興味がある。
- 就職活動にも役立てたい。



中部大学

# 地域活性化リーダー

資格取得ガイド

文部科学省 平成27年度

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」選定取組

ふるさとに  
狙いを  
さだめよう。

ボクらが  
地域の未来を  
つくるんだ!

# 「地域未来」のスキマに キミのチャンスがある!

## これからは「地域」がオモシロイ

人口減少・超高齢社会が地域経済を縮小し、若い世代の地域離れを加速させている現代。  
しかし、いまこそ意識を向けるべきは「地域」です。  
地域の特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生する中心となるのは、やはり「ひと」。  
地域を明るい未来にけん引する、次世代リーダーのやる気と力が求められています。

## 「地域」にこそある、キミの居場所

都心部ではキミは「大勢の中の一人」になるかもしれません。  
でも、地域では一人ひとりの能力や発想、意欲は大切な宝です。  
責任や重圧はあるけれど、仕事のやりがいや魅力をより早く感じることができ、  
自分の可能性がどんどん見えてくるはず。  
充実感にあふれた毎日が、「地域」でキミを待っています!



こんなキミに  
おすすめ

就職は  
ふるさとでしたい。

自分の生まれた  
まちが好き。

地域活性化に  
興味がある。

実際の仕事や  
現場が見たい。

森や川、  
自然が好き。

## 体験フィールドは、清流の国「岐阜」

長良川の鶯飼、世界文化遺産・白川郷、中山道馬籠宿など、全国的に知られる観光名所が点在する岐阜県。  
自然に恵まれた土壌は農業、林業を盛んにし、美濃焼・刃物などの伝統工芸から、航空・自動車産業に関連する金属加工等の製造業を発展させて、ものづくりに取り組む「ひと」を育ててきました。  
現在、IT産業の育成やアパレル産業の復興にも力が注がれ、未来を担う次世代リーダーが活躍する場は無限に広がっています。  
中部大学は岐阜県恵那市の中部大学研修センターと岐阜県高山市、奥飛騨温泉郷の新穂高山荘を活用して、岐阜県という地域の現状や未来性を体感できる合宿やゼミを行います。



中部大学研修センター(恵那市)



中部大学新穂高山荘(高山市)

# 中部大学認定 地域活性化リーダーとは

## 岐阜の地域創生へのキーパーソン

地域活性化リーダーとは、岐阜県をモデルに地域の課題解決を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。資格認定までの道のりは遠く、難しそうだと感じるかもしれませんが、まずは臆せず、面白そうだな、楽しそうだな、と思った科目や課外体験に参加してみてください。考えるよりも行動してみることが大切です。自ずと課題や「自分」も見えて、自己成長にもつながります。また、資格認定は就活にも断然有利。一步前へ、その足を踏み出しましょう！



動けば実り豊か。「自分」のここが育つ！伸びる！

中部大キャンパスで

# 学ぶ

授業で知識を習得

地域や社会に貢献するために、自分はどうな人で何ができるのかを考え、自己を開拓し、社会人基礎知識を授業で習得。地域社会の背景や、問題解決に必要な専門知識も学びます。

3単位以上 必須

岐阜県で

# 動く

課外体験に参加・実践

岐阜県内にキャンパスを広げ、地域の人々とともに、地域特有の課題に取り組みます。その実践過程において、自分の能力や可能性を探り、社会人としての考え方を鍛え、個性を伸ばします。

5企画以上の参加 必須

P  
B  
L

キミのやる気を応援する  
完全バックアップ体制！

地域活性化リーダーの育成は大学、地方公共団体、企業の連携で行われます。

- 岐阜県経営者協会 (岐阜県インターンシップ推進協議会)
- 十六銀行・大垣共立銀行

岐阜県の会社や企業が課外体験に協力。実社会、現場、仕事を体感できます。

- 就職情報サービス マイナビ

企業と学生のマッチングイベントや就職相談室を常設。資格認定希望者限定の企業情報もあります。

認定

## 動く この資格ならではの。地域志向の「課外体験」

課外体験はすべて岐阜県で行われますが、地域が持つ課題は全国的に共通する点も多く、ふるさとでのUターン就職を考える人には特におすすめ。

### 大学合同プログラム

岐阜大学・中部学院大学・日本福祉大学・名古屋学院大学などの他大学の学生たちと、切磋琢磨しながら交流を図る大学合同プログラム。仲間が増えて人脈も広がります。

### 企業向け成果発表会

自らの学びの成果を企業に向けてプレゼンテーションします。

### 岐阜企業展

岐阜県内企業とのマッチングイベントに参加します。

### サマースクール

宿泊活動を行い、大学間・異学年の交流を深めるとともに企業への取材活動や発表を行います。

### 企業見学会

大学での学びと企業との繋がりを知りキャリア形成意欲の向上を図ります。

### 企業現場教育

企業や現場を訪問し、実際の業務を体験します。現場で求められている人材・スキルを体験から学び、就職に向け、将来像を明確にすることができます。



高速道路 施工現場見学

### 地域活性化型インターンシップ(A+B)

参加手続: インターンシップA・Bと同じ  
実習先: インターンシップBのマッチング段階で別案内  
COC+事業協働機関の協力を得て魅力ある岐阜県の企業、官公庁などで行われる「地域活性化型インターンシップ」へ参加します。岐阜県出身者や岐阜県の企業に関心のある学生には特に有益な就労体験です。

### フィールド活動@ぎふ

研究室が岐阜で展開しているさまざまな研究・教育活動へ参加。実際に現地で情報を収集し、課題や背景を理解し、解決に挑戦します。講義室を飛び出し、現実世界を自ら体験しましょう。



「新・森の健康診断」



「ジュニアセミナー」

## PBL

ぎふゼミ  
Project Based Learning

仕事に必要な共同作業の能力を養うために、Project Based Learning (課題解決型学習) を、岐阜県をテーマにグループ単位で行います。実社会に対応するリアルな問題に對し、その解決過程に参画することで実践的思考を鍛えます。

課題解決型学習の流れ



# 中部大学 3つの「あてになる人間」育成プログラム

「あてになる人間」育成プログラムの資格は、単位取得だけでなく、そのプロセスにおいて中部大学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」の素質を身につけた学生に認定されるものです。同じ資格に何度でもトライ可能、各資格に共通する講座やプロジェクトもあるので、別の資格を重ねて取得することもできます。

春日井のまちがキミのキャンパス

## 地域創成メディエーター

地域の人と人をつ結びつけるメディエーター[mediator(媒介者)]となり、主体性をもって解決の一步を踏み出す力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

地域志向、ふるさと志向

## 地域活性化リーダー

岐阜県を通して地域の良さを知り、その特徴を生かし、地域をけん引する次世代のリーダーとして、自ら考え行動する力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

21世紀産業界の即戦力になる

## リスク予防管理士

産業活動において重要課題ニーズとして求められる「リスク予防・リスク管理・リスク低減」のスキルを実践的に修得した学生に認定される資格です。

工学部・応用生物学部・生命健康科学部 対象

地域創成メディエーター  
発表会・審査会

動く | 課外 / 1個以上の参加

- 生活・住環境を考えるまちづくり
- コミュニティ情報ネットワーク
- 高齢者・学生交流  
Learning Home Stay
- キャンパスタウン化
- 報酬型インターンシップ
- シニア大学 など

動く | 課外・一部正課 / 5個以上の参加

- 企業向け成果発表会 大学連携 必須
- 岐阜企業展 大学連携 必須
- サマースクール 大学連携 必須
- 企業見学会 大学連携
- 企業現場教育 岐阜県内対象 選択必須
- 地域活性化型  
インターンシップ 岐阜県内対象・インターンシップA+B:3単位 選択必須
- フィールド活動@ぎふ 岐阜県内対象のゼミ単位プロジェクトなど 選択必須

動く | 課外

企業現場教育 必須

どの資格も  
思い立ったら  
始めどき!  
いつでもチャレンジ!!

受講はいつからでも、どこからでも。  
必須単位の取得順序に決まりはありません。  
それぞれの必要項目を満たした時点で  
認定申請が可能です。

学ぶ | 正課 / 10単位以上

- キャリア教育科目 1単位以上必須  
自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位
- 特別課題教育科目 2単位以上必須  
地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位
- 地域関連科目 2単位以上必須  
すべての科目より自己選択・申請

学ぶ | 正課 / 3単位以上

- キャリア教育科目 自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位
- 特別課題教育科目 地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位 選択必須
- リスク予防管理士指定科目 バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位  
岐阜県企業より特別講師を招聘

学ぶ | 正課・一部課外

- リスク予防管理士特別セミナー 必須  
企業経営者クラスによる講演
- リスク予防管理士指定科目 必須  
バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位  
企業より特別講師を招聘



地域連携教育研究推進部の事務局またはWebサイトで、詳しい情報が入手できます。

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

中部大学 COCプラス

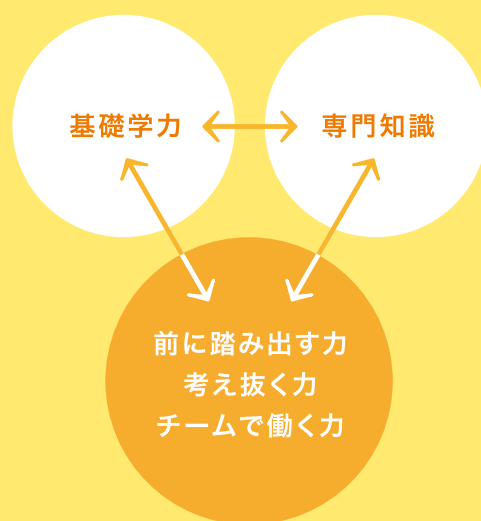
検索



# チャレンジする勇氣と実行。

## もっと社会に、より地域に近い教育を。

中部大学の3つの「あてになる人間」育成プログラムは、  
在学中から社会経験を積み、社会で生きていくための  
即戦力を身に付けることができる中部大学方式の人材育成プログラム。  
その目標を資格取得要件に定めていますが、  
資格そのものが大事なのではなく、資格取得までの道のりこそが  
「意義」と「価値」がある「行動」です。  
自分の可能性を信じて、挑戦してみませんか？





## 地域志向、ふるさと志向。中部大学COC<sup>プラス</sup>事業

中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は平成27年、文部科学省の大学COC+事業(大学連携取組「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」)に採択されました。岐阜をモデル地域として、その魅力や課題を見つけ、特徴を生かして課題解決に向けて行動する能力を備えた、若き産業リーダーの育成に取り組んでいます。地域活性化リーダーの資格への挑戦は貴重な経験であり、その努力が実った資格認定は達成感や充実感があり、自分の自信と誇りになります。仲間とともに地域を、そして自分を創生しませんか。

### 中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(16号館3階)

TEL 0568-51-1763 FAX 0568-51-4659

E-mail: plus@office.chubu.ac.jp



中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は、文部科学省が地域の課題解決に取り組む大学を支援する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」=大学COC+(Center of Community Plus)事業です。

詳しくはWebサイトへ

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

中部大学 COCプラス

検索

## (2) 運営体制・メンバー表



「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」運営体制  
【ぎふCOC+事業推進コンソーシアム】

<b>構成団体</b>	岐阜大学、中部学院大学、 <u>中部大学</u> 、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ ＜協力校＞ 岐阜経済大学
<b>役員</b>	代 表（1名）：岐阜大学長 副代表（2名）：岐阜大学理事、 <u>中部大学長</u>
<b>事務局</b>	岐阜大学学術国際部社会連携課

**運営会議** 事業の運営に関する重要な事項を審議する。  
岐阜大学長・理事・地域協学センター長・統括事業推進コーディネーター、中部学院大学長、中部大学長、日本福祉大学長、名古屋学院大学長、岐阜県知事、岐阜県経営者協会会長、十六銀行頭取、大垣共立銀行頭取、マイナビ事業本部長

**評価委員会**  
事業の着実な実施と事業実施による成果を産官学金言等の有識者により検証する。

**幹事会** 事業協働機関の実務担当者及び事業推進コーディネーターで構成し、事業全体企画・運営について調整する。  
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

**人材育成企画部会**  
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学

**連携・マッチング推進部会**  
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

# 1. 概要

## 平成 29 年度 COCプラス推進委員会名簿

委員長	COC地域連携教育研究センター センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾 直規
副委員長	COC地域連携教育研究センター 副センター長 (応用生物学部 応用生物化学科)	倉根 隆一郎
副委員長	教育戦略部門 キャリア部長 (経営情報学部 学部長補佐)	大島 俊一
委員	工学部副学部長 (応用化学科)	幅上 茂樹
	経営情報学部 経営会計学科	澤村 隆秀
	国際関係学部 国際学科	桃井 治郎
	人文学部 コミュニケーション学科	三摩 真己
	応用生物学部 環境生物科学科	上野 薫
	生命健康科学部 生命医科学科	伊藤 守弘
	現代教育学部 児童教育学科	古市 真智子
	工学部 電気システム工学科	廣塚 功
	工学部 都市建設工学科	余川 弘至
	工学部 応用化学科	宮内 俊幸
	工学部 ロボット理工学科	藤吉 弘亘
	経営情報学部 経営総合学科	趙 偉
	国際関係学部 国際学科	羽後 静子
	人文学部 歴史地理学科	三浦 陽一
	応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田 俊夫
	応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川 宣子
	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科	西垣 景太
	現代教育学部 現代教育学科	宮川 秀俊
	全学共通教育部 副部長	佐野 充
	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
	学生教育部 教務支援課 課長	出口 良太
	学生教育部 キャリア支援課 課長	庄山 敦子
	学生教育部 キャリア支援課	佐野 賢志
アドバイザー	副学長 (教育担当)	杉本 和弘
事務局	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
	課長	丹羽 ゆかり

## 平成29年度 COC+教育研究部会

委員長	COC地域連携教育研究センター 副センター長 (応用生物学部 応用生物化学科)	倉根 隆一郎
委員	工学部副学部長 (応用化学科)	幅上 茂樹
〃	工学部 応用化学科	宮内 俊幸
〃	工学部 ロボット理工学科	藤吉 弘亘
〃	経営情報学部 経営総合学科	趙 偉
〃	国際関係学部 国際学科	羽後 静子
〃	人文学部 歴史地理学科	三浦 陽一
〃	応用生物学部 環境生物科学科	上野 薫
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田 俊夫
〃	生命健康科学部 生命医科学科	伊藤 守弘
〃	現代教育学部 現代教育学科	古市 真智子
〃	全学共通教育部 副部長	佐野 充
〃	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	教務支援課 課長	出口 良太
オブザーバー	COC地域連携教育研究センター センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾 直規
〃	教育戦略部門 キャリア部長 (経営情報学部 学部長補佐)	大島 俊一
〃	キャリア支援課 課長	庄山 敦子
事務局	地域連携教育研究推進部 課長	丹羽 ゆかり

平成29年度 COC+キャリア部会

委員長	教育戦略部門 キャリア部長 (経営情報学部 学部長補佐)	大島 俊一
委員	工学部 電気システム工学科	廣塚 功
〃	工学部 都市建設工学科	余川 弘至
〃	経営情報学部 経営会計学科	澤村 隆秀
〃	国際関係学部 国際学科	桃井 治郎
〃	人文学部 コミュニケーション学科	三摩 真己
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川 宣子
〃	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科	西垣 景太
〃	現代教育学部 現代教育学科	宮川 秀俊
〃	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	キャリア支援課 課長	庄山 敦子
〃	キャリア支援課	佐野 賢志
オブザーバー	COC地域連携教育研究センター センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾 直規
〃	COC地域連携教育研究センター 副センター長 (応用生物学部 応用生物化学科)	倉根 隆一郎
事務局	地域連携教育研究推進部 課長	丹羽 ゆかり



## 2. 活 動 報 告

### <学内プログラム>

#### (1) 外部特別講師講義



## 外部特別講師 一覧 (平成29年度)

## 工学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	スタートアップ セミナー	道路および往路構造物の必要性、 役割、建設の流れ	大日コンサルタント (株)	則竹 博明
2	伝熱工学	工業炉の実際	(株)TYK 環境材料研究所	高木 修
3	有機化学A	化学物質のリスク評価と管理入門	(株)富士清空工業 所	奥田 篤史
4	創成ゼミナールB	会計士がみたこれからの「働き方」	しのだ会計事務所	篠田 陽子
5	企業情報システムと 倫理	物流企業におけるICT	(株)セイノー情報 サービス	早川 典雄
6	ゼミナールA	人間型ロボットハンドとその応用 システム	H&Kフロント ステージ	川崎 晴久

## 経営情報学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	基礎ゼミナール	岐阜県企業から学ぶ初年次における キャリア形成	(株)オンダ製作所	箕浦 大輔 中斎 崇仁

## 人文学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	日本の歴史と文化	有機栽培の新技术で日本の健康を 育てる	(株)レンゲの里岐 阜	山田 克己
2	取材力	ケーブルテレビにおける地域との関 わり	中部ケーブルネッ トワーク美濃加茂 放送局	林 雅道

2. 活動報告<学内プログラム>

応用生物学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	バイオ産業リスク予防学	日本酒醸造をとりまく環境とそれに関わるリスク管理	岩村醸造(株)	渡會 充晃
2	食品リスク予防学	株式会社サラダコスモにおける食品リスク管理の事例紹介	(株)サラダコスモ	猪野 嘉中
3	食品リスク予防学	リスク管理～食品製造におけるリスク及びリスク予防について～	(株)秋田屋本店	池野 久美子
4	食品リスク予防学	食品会社における安心と安全	内堀醸造(株)	浅川 和也 浅井 未穂
5	食品リスク予防学	企業活動におけるリスクマネジメント	厚生産業(株)	坂井 猛
6	環境生物科学セミナー	当社におけるリスク管理と地域貢献	(株)カカム	各務 晋生

生命健康科学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	健康運動 トレーニング論	コパンスポーツクラブの取り組み	スポーツクラブ コパン	半田 遼太郎
2	健康運動 トレーニング論	アスリートをサポートする仕事 ～専門分野を持つこと～	岐阜県スポーツ科学センター	亀岡 舞

現代教育学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	幼児教育課題研究B	岐阜県の保育の現状とシュタイナー教育について	清流みずほ保育園	高岡 佳世

## (2) 特別セミナー



学生の皆さんへご案内します!



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

# 特別セミナー

Vol.4  
参加無料

平成29年 **10月18日(水)** 15:20~16:30

会場 / 中部大学 不言実行館1階 アクティブホール

## PROGRAM

開会挨拶 | 15:20~15:25 | 中部大学 COC地域連携教育研究センター センター長 **松尾 直規**

講演 | 15:25~16:25 | 講演50分 / 質疑応答10分

太平洋工業株式会社 代表取締役社長

**小川 信也 氏**

## 自動車産業の展望と 太平洋工業の取組み

自動車産業は、コネクテッド・EV・自動運転支援・AI・IoTなど、大きな変節点にある。

また、企業は、透明性・公共性のある経営が要請されている。

太平洋工業は、1930年、タイヤ・バルブコアの国産化をめざしベンチャービジネスとして

祖父が創業し、戦後にプレス事業を加え成長してきた。

「100年企業」「GLOCALなトップメーカー」を目指し、事業展開を進めている。

### 講師プロフィール



大垣市生まれ 70歳

昭和45年 3月 慶応義塾大学 法学部 卒業

昭和48年 4月 トヨタ自動車工業株式会社 入社

昭和56年 2月 太平洋工業株式会社 入社

平成 8年 6月 代表取締役社長(現在に至る)

主な公職歴

平成11年 5月 (一社)日本自動車部品工業会 理事(現在に至る)

平成13年 5月 岐阜大学地域交流協会の会長(平成27年5月退任)

平成14年 5月 (一社)大垣労働基準協会 会長(現在に至る)

平成16年11月 (公財)小川科学技術財団 理事長(現在に至る)

平成18年10月 岐阜県公安委員会 委員長(平成19年10月退任)

平成19年 4月 大垣市文教協会 会長(現在に至る)

平成19年11月 大垣商工会議所 会頭(平成25年10月退任)

平成25年 6月 岐阜大学経営協議会 委員(現在に至る)

平成28年 5月 (公財)オノ岐卓支部 会長(現在に至る)

平成29年 6月 (一社)岐阜県経営者協会 会長(現在に至る)

閉会挨拶 | 16:25~16:30 | 中部大学 COC地域連携教育研究センター 副センター長 **倉根 隆一郎**

セミナー終了後は、就職ガイダンスを開催します。

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

TEL.0568-51-1763 (直通) FAX.0568-51-4659

E-mail / [plus@office.chubu.ac.jp](mailto:plus@office.chubu.ac.jp)

HP / <http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>



中部大学

## 平成 29 年度 COC+特別セミナーアンケート集計

日 時 : 平成 29 年 10 月 18 日 (水) 15:20~16:30  
講 演 者 : 太平洋工業株式会社 代表取締役社長 小川 信也 氏  
学生参加者 : 147 名  
(経営情報学部 経営会計学科・経営情報学科・経営学科  
工学部 機械工学科・情報工学科・機械工学専攻)  
回 答 者 : 123 名 (回 答 率 : 84%)

### 1. 本日のセミナーに参加して良かったですか？

はい 115 名 (93%)    いいえ 6 名 (5%)    無回答 2 名 (2%)

### 2. 資格取得を考えていますか？

はい 85 名 (69%)    いいえ 33 名 (27%)    無回答 5 名 (4%)

### 3. 本日のセミナーに関して意見や感想を記入して下さい。

- ・何にしても人は財産であり、企業を形成するのも、取り巻くのも人であって、大事にしなければいけないと感じました。次世代への取り組み、技術の発展やグローバル化、どれもどの産業でも今後、重要になることだと分かりました。そして次の世代を担う私達はこれまでの財産を受け継ぎ、発展させていかなければならない存在だと思いました。自力=時・理・気とあるように、期待に答えられるように力をつけていこうと思いました。
- ・私は、自動車産業に興味を持っており、今回のセミナーでは実際の企業のお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができたと思います。また自動車産業にどんな仕事があるか、今後の自動車産業の課題などが分かり、今まで以上に詳しく調べてみようと思いました。
- ・「人材」のことを「人財」と表していて、社員を「財産」と考えていただいているのだと実感しました。今、スピード感を持って仕事に取り組める人、原理原則を理解し改善・工夫の出来る人材、やる気を持ち、周りの人に気遣いの出来る人材が求められているということが分かりました。

他





学生の皆さんへご案内します!



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)

# 特別セミナー

Vol.5

参加無料

平成29年 **10月25日**(水) 15:20~16:30

会場 / 中部大学 三浦幸平メモリアルホール

## PROGRAM

開会挨拶 ■ 15:20~15:25 ■ 中部大学 COC地域連携教育研究センター センター長 **松尾 直規**

講演 ■ 15:25~16:25 ■ 講演50分 / 質疑応答10分

株式会社恵那川上屋 代表取締役

**鎌田 真悟 氏**

## 「三者が喜ぶ仕組み作り」

岐阜県恵那市で1964年に創業し、農業法人設立による栗栽培技術の資源化及び、栗菓子の開発と販売まで手がけるサプライチェーンを確立してきました。生産者とお客様を繋ぐ役割を重要視し、栗の価格向上とお客様の価値を創造することで、三者が喜ぶ仕組み作りを目指し、事業を運営しています。地域の活性化に繋がるCSVも意識し、地域の自慢づくりに発展できるようマーケティングにも力を入れております。



### 講師プロフィール



昭和38年3月24日生まれ

昭和56年 3月 高校卒業

昭和56年 3月 東京ブルーミッシュ入社  
カタオカ、カフェドロベに転職

昭和59年 4月 中津川川上屋入社

昭和61年 9月 有限会社ブルボン川上屋入社

平成 4年 5月 有限会社ブルボン川上屋、専務取締役就任

平成 9年 5月 有限会社ブルボン川上屋、代表取締役就任

平成13年 9月 株式会社里の菓工房に社名変更、代表取締役就任

平成20年 7月 (株)里の菓工房を分割し、株式会社恵那川上屋を設立、代表取締役就任

平成22年11月 『日本一の栗を育て上げた男の奇跡のビジネス戦略』出版

平成27年 4月 農業生産法人・有限会社恵那栗、取締役就任

平成27年 9月 明治大学専門職大学院 グローバルビジネス研究科修了、MBA取得

平成29年 4月 (株)Waguri Japan設立

閉会挨拶 ■ 16:25~16:30 ■ 中部大学 COC地域連携教育研究センター 副センター長 **倉根 隆一郎**

セミナー終了後は、就職ガイダンスを開催します。

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

TEL.0568-51-1763 (直通) FAX.0568-51-4659

E-mail / [plus@office.chubu.ac.jp](mailto:plus@office.chubu.ac.jp)

HP / <http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>



中部大学

## 平成 29 年度 第 2 回 COC+特別セミナー アンケート集計

開催日時 : 平成 29 年 10 月 25 日 (水) 15:20~16:30  
講演者 : 株式会社恵那川上屋 代表取締役 鎌田 真悟 氏  
学生参加者 : 315 名  
(応用生物学部 応用生物化学科・環境生物科学科・食品栄養科学科、  
生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 他)  
回答者 : 226 名 (回答率 : 72%)

### 1. 本日のセミナーに参加して良かったですか？

はい 207 名 (92%)    いいえ 9 名 (4%)    無回答 10 名 (4%)

### 2. 資格取得を考えていますか？

はい 160 名 (71%)    いいえ 57 名 (25%)    無回答 9 名 (4%)

### 3. 本日のセミナーに関して意見や感想を記入して下さい。

- ・地域のブランド化をすることによって、その地域の農業や住んでいる人も活性化し、それが自分のやりがいに繋がるのは素晴らしいと感じた。私も自分のために仕事をただこなすのではなく、誰かのため、何かのために仕事という垣根を越えて、のめり込めるような事を見つけないかと思った。また、人として誠実に生きることや、夢を持つことの大切さを学ぶことが出来ました。
- ・どこの田舎にも、食文化と農業と芸術がある事を知りました。風味は食文化、風土は農業、風景は芸術であり、芸術が1番大切であると知りました。風が吹いたら桶屋が儲かる。見えない風から見える風へのシフト。渦の中心になることが大切だと思いました。
- ・一番印象に残ったのは「価値の交換」でした。鎌田様が勇気を持って踏み出したことに対して、尊敬と希望をもらえました。今後、自分になりたい、やりたいと思える所に行けるように考え方を考えるきっかけになった講演を聞くことが出来て良かったです。

他



### (3) PBLぎふゼミ



自分らしくって?  
自分の持ち味を  
知りたい

リーダーシップを  
発揮したい

コミュニケーションが  
不安…

チームになるとは  
どういうこと?

地域貢献に  
興味がある

人見知りして  
うまく話せない  
グループワークが  
苦手!

そんな学生の皆さんへ

# PBLぎふゼミ

地域・社会で活躍したい! その一歩を応援します

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が自分の持ち味を発揮して  
地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。  
自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

2017年 **8月28日(月)・29日(火)** <2日間連続プログラム>

両日とも **9:30～17:30** 中部大学 5131講義室 (51号館3階)

対象: 全学部1～4年生 定員: 40名 (先着順、定員になり次第募集終了) 受講料: 無料  
申込方法: 氏名・学籍番号・学年・携帯番号を 電話かEメールでお知らせください(締切7月21日)  
※この「PBLぎふゼミ」は、中部大学認定[地域活性化リーダー]資格取得に必須です。

テーマ

「自分が何かを学ぶときのスタイルを探求する」「自他の価値観について探求する」  
「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」「課題解決のプロセスを体験する」etc.



文部科学省  
地(知)の拠点

平成27年度採択 文部科学省地(知)の拠点  
大学による地方創生推進事業(COC+)

中部大学 地域連携教育研究推進部 (16号館3階)

http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/ ダイヤルイン 0568-51-1763  
E-mail: plus@office.chubu.ac.jp 担当: 丹羽・早川

## PBL ぎふゼミの様子



個人ワーク



グルーピング



グループディスカッション



グループディスカッション



発表



発表



プレゼントカード交換



プレゼントカード交換

中部大学 御中

*2017 年度*  
PBL ぎふゼミ  
アンケート集計結果  
報告書

2017 年 9 月  
株式会社ラーニングバリュー

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計



目次

プログラム概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】 4

Q 1. このプログラムに期待していますか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Q 2. PBLぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？・・・・・・・・・・・・ 7

Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか？・・・・ 8

【受講後アンケート】 9

Q 1. このプログラムに満足しましたか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？・・・・ 12

Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？・・・・ 14

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？・・・・ 16

Q 5. このプログラムを受け、普段の授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？・・・・ 18

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？・・・・ 20

Q 7. このプログラムを通じて、どのような力や姿勢が身についたと思いますか？・・・・ 22

Q 8. 「地域活性化リーダー」に向けた活動で、興味のあるプロジェクトは何ですか？・・・・ 23

Q 9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください・・・・ 24

Q 10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください・・・・ 26

【受講前・後比較】 27

受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか？

受講後Q：このプログラムを通じて、どのような力や姿勢が身についたと思いますか？

\*アンケートのフリーコメントについては、記入されたままを再現しています



## プログラム概要

■実施日：2017年8月28日(月)－29日(火)

■アンケート回答者：受講前／19名 受講後／19名

■実施プログラム：下記のとおり

### 中部大学 PBLぎふゼミプログラム

	1日目		2日目
9:30	<b>①オリエンテーション</b> あいさつ 本ゼミの狙い  <b>②個人ワーク</b> ・実習「あなたの学習スタイル」 解説  <b>③グループワーク</b> ・グルーピング ・実習「記者会見」 ・ふりかえり	9:30	<b>⑦個人ワーク</b> ・実習「私のライフポジション」 ・解説  <b>⑧個人ワーク・グループワーク</b> ・実習「私を活かすコミュニケーション」 ・解説  <b>⑨グループワーク</b> ・課題解決実習 ・ふりかえり
	昼食		昼食
	<b>④グループワーク</b> ・実習「総当たりインタビュー」 ・ふりかえり  <b>⑤グループワーク</b> ・実習「コンセンサスを求めて」 ・実習のふりかえり		<b>⑩グループディスカッション</b> ・実習「岐阜を取り巻く現状について考える」 ・シェアリング  <b>⑪個人ワーク・グループワーク</b> ・実習「イメージ交換」  <b>⑫個人ワーク・グループワーク</b> ・私の得たこと、学んだこと
17:30	<b>⑥まとめ</b>	17:30	<b>⑬まとめ</b>

\*プログラムの内容や進行については状況により変更の可能性があります。ご了承下さい。

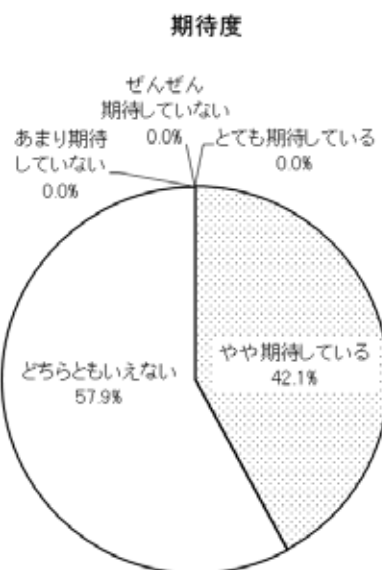
2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計



受講前アンケート

Q 1. このプログラムに期待していますか？それはなぜですか？



期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	19	0	8	11	0	0	0
		0.0	42.1	57.9	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

## 2. 活動報告<学内プログラム>

### 「PBLぎふゼミ」アンケート集計



#### フリーコメント

##### 【やや期待している】

- 岐阜について学ぶことができる。
- これから社会に出るときに強いリーダー性を発揮するため。
- これからの社会に入った時に役立つと思ったから。
- 自分の個性や特徴を把握した上で、それを身近な地域の課題解決に活かすということに興味を持てると思ったから。
- 自分の住んでいる地域が岐阜県であるからさらに自分の地域への理解を深められそうだから。
- 自分は自分から意見を発するのが苦手なのでこのゼミで少しでも力を伸ばせると思ったから。
- 社会で働くときに必要なコミュニケーション力を学べるから。
- 地域を活性化させるための知識を得ることができると思うから。

##### 【どちらともいえない】

- 具体的に何をやるのかいまいち分かっていない。
- 詳しい内容を知らないから。
- 自分の成長にどうつながるのかが分かっていないため。
- 自分の中の未知の部分に触れることができると感じているから。
- 地域を活性化するために自分の良さを出す、理解するきっかけにしたい。
- チラシに書いてある文句には興味があるものの、プログラム内容の詳細が不明であるため、現段階においては曖昧な解釈ゆえにどちらとも言えない。
- 特定の人以外と話すことが少ないので頑張りたいです。
- どんなことをするのか未知なため。
- 何をやるかよく分からないから。
- まだこのプログラムが何をやるプログラムなのかプログラムを行う前なので、どちらとも言えない。
- やることが分かっていないから。

Q2. PBLぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？

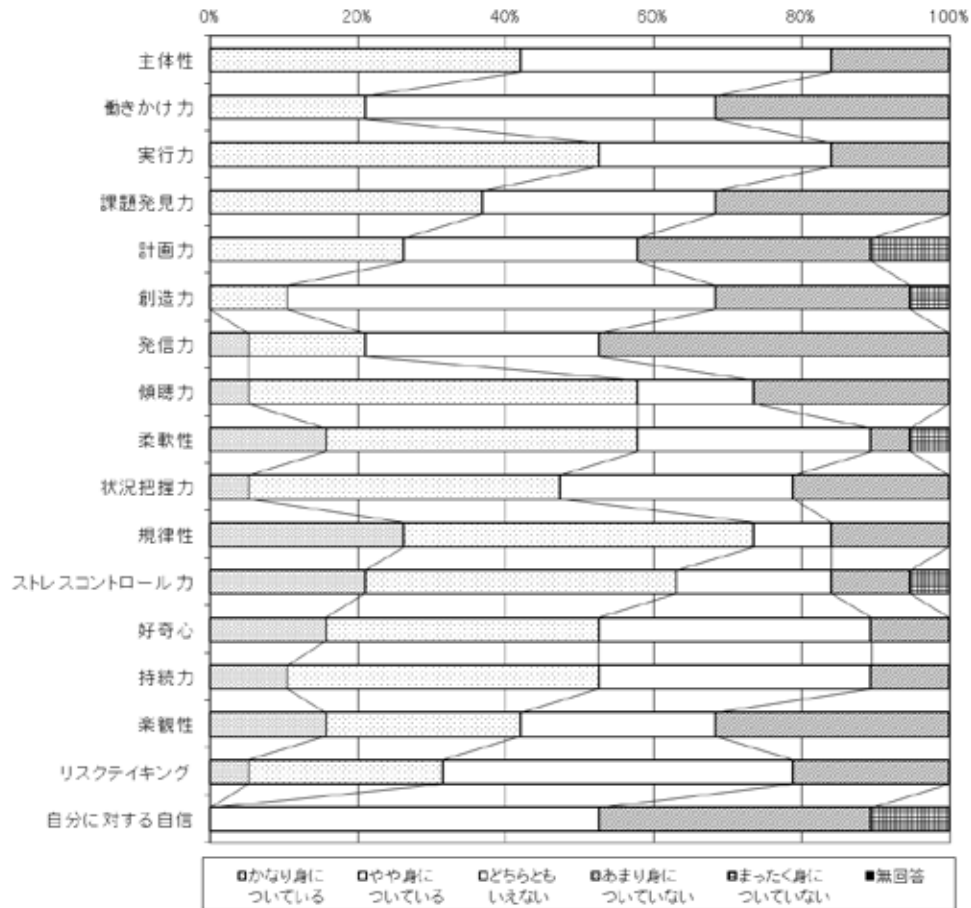
フリーコメント

- 学科の友達に誘われた。
- 興味があったので参加しようと思った。
- グループワークについて学べると聞いたから。
- 研究室で参加することになったため。
- 自主活動を行っているから。
- ゼミ全員での参加だから。
- ゼミでの参加。
- 先生からお誘いがあり、自分が成長できるきっかけになると思ったから。
- 先生から誘いがあったため参加を希望しました。
- 先生に誘われた。
- 先生に誘われたから。
- 先生に参加を促された。
- 先生に参加を勧められたため。
- 先生の勧め。
- 大学ゼミでの参加。
- 大学のゼミで紹介を受け参加。
- 地域活性化リーダーという資格を取得できると聞いたから。
- 地域活性化リーダーの資格が欲しいから。
- 地域貢献に興味があった。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計

Q3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？



(%)

	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	19	0.0	42.1	42.1	15.8	0.0	0.0
働きかけ力	19	0.0	21.1	47.4	31.6	0.0	0.0
実行力	19	0.0	52.6	31.6	15.8	0.0	0.0
課題発見力	19	0.0	36.8	31.6	31.6	0.0	0.0
計画力	19	0.0	26.3	31.6	31.6	10.5	0.0
創造力	19	0.0	10.5	57.9	26.3	5.3	0.0
発信力	19	5.3	15.8	31.6	47.4	0.0	0.0
傾聴力	19	5.3	52.6	15.8	26.3	0.0	0.0
柔軟性	19	15.8	42.1	31.6	5.3	5.3	0.0
状況把握力	19	5.3	42.1	31.6	21.1	0.0	0.0
規律性	19	26.3	47.4	10.5	15.8	0.0	0.0
ストレスコントロール力	19	21.1	42.1	21.1	10.5	5.3	0.0
好奇心	19	15.8	36.8	36.8	10.5	0.0	0.0
持続力	19	10.5	42.1	36.8	10.5	0.0	0.0
楽観性	19	15.8	26.3	26.3	31.6	0.0	0.0
リスクテイキング	19	5.3	26.3	47.4	21.1	0.0	0.0
自分に対する自信	19	0.0	0.0	52.6	36.8	10.5	0.0

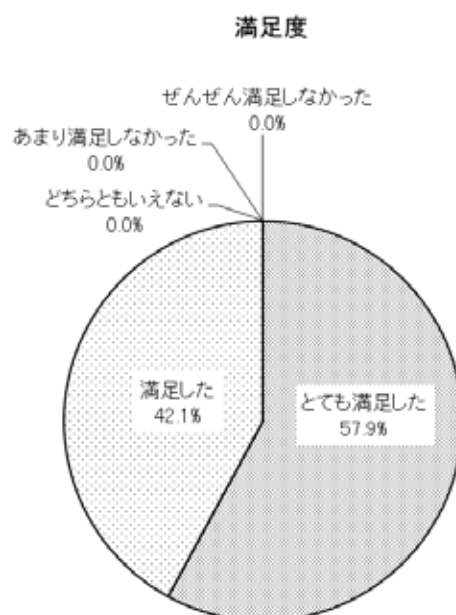


## 受講後アンケート

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計


Q1. このプログラムに満足しましたか？それはなぜですか？



満足度		とても満足した	満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	ぜんぜん満足しなかった	無回答
全体	19	11	8	0	0	0	0
		57.9	42.1	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)



  
**フリーコメント****【とても満足した】**

- グループワークが思ったよりもだいぶ面白かった。
- コミュニケーションについていろいろ知る部分が多かったなので、討論する際などに大学生活や企業などで役立つ部分が多かったと考えたから。
- 最初はどうかんだろうと不安な所もあったけれど、ふたを開けてみれば、自分にとってプラスでしかなかったから。
- 自身を見つめる数少ない機会だったから。
- しっかり話し合いに入ることができ、また自分の持ち味・足りない所を確認できたから。
- 初対面の人や他の学科の人などと話すことができてとても楽しかった。
- 知らない人とでもうまく課題を解決することができた。
- 先輩方にも自分の意見を伝えられたし、自分を知ることができました。
- 楽しかったです。
- 話す能力を身につけることができた。
- 人と話すときの苦手意識が少し軽減されたと思います。

**【満足した】**

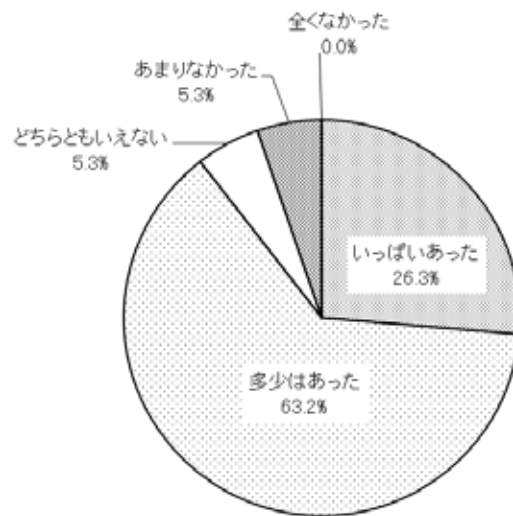
- あまりない機会だったから。
- グループという大人数の中で話し合ったり、自分の意見を伝えることができた。
- 様々なプログラムを通して、自分自身が持っている本来の姿と認識することができた。
- 存外楽しんで取り組めた。
- 楽しくコミュニケーションやグループワークについて学べた。
- 楽しく話すことができたから。
- 違った(知らなかった)自分に会えたから。
- 皆と意見を言い合う事ができたから。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計


Q2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？  
それはどんな点ですか？

自分自身への新たな発見



自分自身への新たな発見		いっぱいあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	全くなかった	無回答
全体	19	5	12	1	1	0	0
		26.3	63.2	5.3	5.3	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)



## フリーコメント

### 【いっぱいあった】

- 意見交換の場が少ない中で、色んな人と話し合いを行い、新たな観点から物事が見れた。
- 自分の長所・短所が分かった。
- 自分の持ち味・魅力・足りない部分・伸ばすと良い所。
- 初対面の人とでもうまくコミュニケーションが取れる。
- 他人が考えたことに対して自分が考えたことや、全く立場が違う人の考えを受け入れて、自身も発言できたこと。

### 【多少はあった】

- 意外に積極的に意見を言うことができた。
- いろいろな点をグループの人から教えてもらいました。
- 頑張ればこんなに初めて会う人とも話せるのだと自分でもびっくりしました。
- コメントカードに書かれていたことで、自分では気付いていない部分が初対面の人に教えてもらった。
- 自分はあまり積極的に発言する方ではないと思っていたけれど思ったよりも積極的なかもしれない。
- 初対面の人にもちゃんと意見を言えた。
- 積極性があることを発見できた。
- 話し合いを全体的に見れていた。
- 分析力と発言の正確さ。
- まだまだ意見を話せない場面があると思いました。しかし、伝えたいことは相手に伝わっていたと思います。
- 物事に対して冷静に判断していたことを知った。
- ライフポジションや学習スタイルで自分自身に対して知ることがあったので、新たな発見があった。

### 【どちらともいえない】

- 大体自分で思っていた通りの性格をしていた。

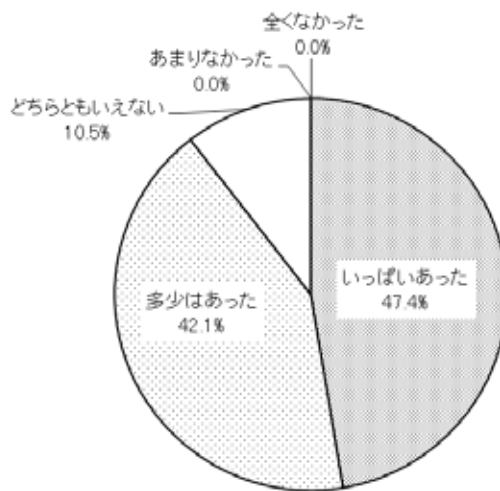
2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計



Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？  
それはどんな点ですか？

他者理解に変化はあったか



他者理解に変化		いっばい あった	多少は あった	どちらとも いえない	あまり なかった	全く なかった	無回答
全体	19	9	8	2	0	0	0
		47.4	42.1	10.5	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

## フリーコメント

### 【いっぱいあった】

- 相手がどのように見てどのように考えているのかという観点により、重要性を見出すことができた。
- 相手が話している最中など表情から「この人は今何を考えているのか」や、どんな人なんだろうと考え、その上でその人と関わっていくということをしました。その方が話題も振りやすく話も弾み、自分の中で良い方向に変化した。
- 相手のことを知ることで、相手がどういう性格の人なのか分かり、上手くコミュニケーションが取れる。
- 記者会見等で相手のことを深く知ることでグループワークでは緊張せずに話せました。
- 自分と違う意見があり、人と話すことは自分の力になるのだと思いました。
- 自分にはなかった意見を聞き入れるようにしようと思った。
- 話したり聴いたりすることが大切。
- 見た目だけでは分からないことがある。
- より相手を詳しく観察するようになった。

### 【多少はあった】

- 「総当たりインタビュー」で一つの話題から広げていって時間をつなげるということをやったので、深く知れたと思う。
- 相手が話していることについて聴くを心で感じたから。
- 相手を知らなければ深い所までの話し合いができない。相手をもっと知ることが大事であると思った。
- 相手を理解しようとする姿勢が分かった。
- 言葉だけでなく表情などもすごく大切になってくると分かった。
- 自己紹介だけでなくいろいろ話し合いをしていくことで見えてくる部分もあることが分かった。
- しっかりと相手の意見を聞いた。
- 話を聴く姿勢は多少変えられたと思う。

### 【どちらともいえない】

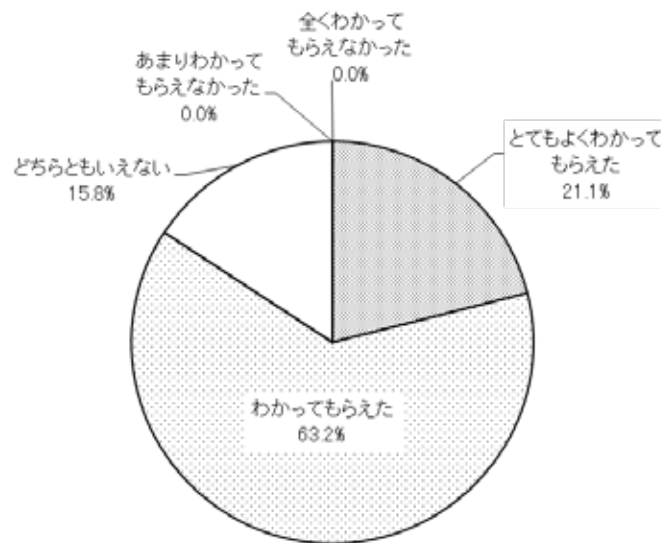
- 自分が主張することが多かったが、他人の意見にも耳をかたむけることができた。
- わりと観察して相手のことを探っていた。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計

Q4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？それはどんな点ですか？

自分のことをわかってもらえたか



自分のことをわかってもらえたか		とてもよくわかってもらえた	わかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	全くわかってもらえなかった	無回答
全体	19	4	12	3	0	0	0
		21.1	63.2	15.8	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)



## フリーコメント

### 【とてもよくわかってもらえた】

- 明るいところなど。
- 自信をもって発言できる。
- とても冷静な点や分析力などのプラス面、発言の少なさや前に出る勇気のなさといったマイナス面。
- なかなか先輩の前で話せなかったことです。

### 【わかってもらえた】

- 打ち解けるのが早いこと、意外とリーダーシップに向いているということ。
- 最後のプレゼントカードからも自分の悪い所など見抜かれていたのでその分良い所も分かってもらえたんだなと感じました。
- 自分から言いたいことをしっかり発言できたと思うので分かっていただけだと思います。
- 自分自身の持ち味をグループのメンバーにも上手く理解してもらえたのではないかと思います。
- 自分の意見の特徴など。
- 自分の意見をしっかり述べること。
- 性格を知ってもらえた。
- プレゼントカードにもっと意見を言ってほしいという言葉がたくさんあり、その通りなので多少は理解してくれたのだろうと思う。
- 周りに合わせてしまう所。
- 冷静でしっかりと自分が思っていることを伝えることができた。
- わかってもらいました。
- 私が人をまとめるときに自分でも失敗したとか、苦手だと思っていることについて言ってもらえた点。

### 【どちらともいえない】

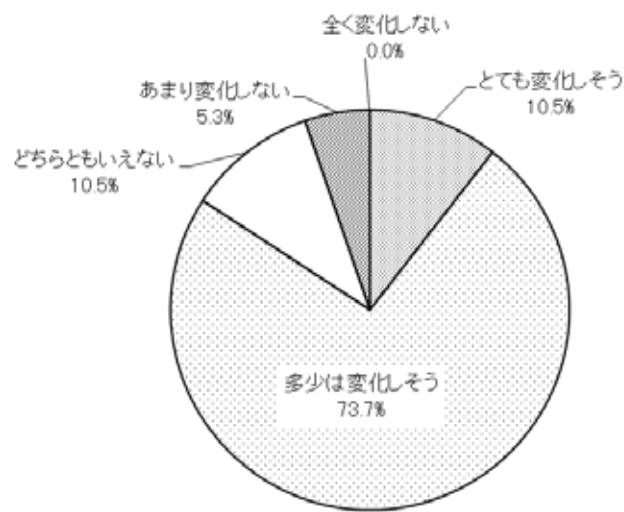
- 議論中に自分で話すことに熱中しすぎる点。
- 自分がどんな人か逆に教えてもらいました。
- 楽しく話しているのは伝わったと思う。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計

Q5. このプログラムを受け、普段の授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？どんな変化ですか？


授業への取り組み姿勢に変化がおきそうか



授業への取り組み姿勢に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらもいえない	あまり変化しない	全く変化しない	無回答
全体	19	2	14	2	1	0	0
		10.5	73.7	10.5	5.3	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)





## フリーコメント

### 【とても変化しそう】

- 自分の意見を持ち、人と共有できる。
- 知らない人に自分から話してみたりすることができる。

### 【多少は変化しそう】

- 期待して聞くということは普段でもできるため、今までとはまた違う授業の受け方ができそうだなととても楽しみです。
- グループワークがあれば自分から発言していきたい。
- グループワークで自分の意見をはっきりと言えそうです。
- 心の持ちよう。
- しっかりと物事を考えながら人の話を聞けそう。
- 授業への取り組みは授業ではグループになり話し合うことはあまりないので、講義ではなく実習やゼミで活かせそうな気がした。
- 積極性を活かして意見を述べたい。
- ゼミと卒研しかないけど頑張ろうと思った。
- 先生の話聞くだけの授業ではなく、それにつながる流れなどを考えながら聞きたいと思います。
- ただ先生の話聞くだけでなく、授業の内容を友達や先生と話し合うことも大切だと思った。
- 発言をするようになるかもしれない。
- 発表の場が多くなるとどういう取り組みをしてきたとかどういう考え方を持っているのだろうかなど変化しそうである。
- 話を聴く姿勢。
- もう少し人と会話することが増えそう。

### 【どちらともいえない】

- 自分だけで決めず、話し合うようにしたい。
- 話し合いがあれば積極的に発言したいなと思った。

### 【あまり変化しない】

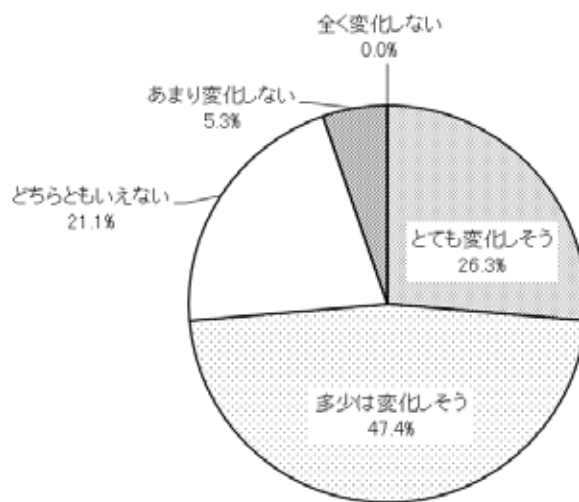
- 迷った時に他人と話すようにしたい。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計

Q6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？  
どんな変化ですか？

今後の学生生活に変化がおきそうか



今後の学生生活に変化がおきそう		とても変化する	多少は変化する	どちらともいえない	あまり変化する	全く変化する	無回答
全体	19	5	9	4	1	0	0
		26.3	47.4	21.1	5.3	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

## フリーコメント

### 【とても変化しそう】

- 色々なことに積極的になれそう。
- コミュニケーションを頑張って取りに行けそう。
- 資格取得に1歩進んだと思います。また、先輩にも自分の意見等を話せそうです。
- 友達が増えそう。
- 全く知らない人と二日間過ごし、とても仲良くなれたし発言もたくさんできました。自分に自信をつけることができたので、今後討論・初対面の人など率先して話していけるとと思います。

### 【多少は変化しそう】

- 色々なことに積極的になれそう。
- 色々な人とコミュニケーションが取れそう。
- 今後もこういったプログラムに参加したいと考えたし、してみたいと思いました。
- 自分に自信を持って物事に取り組みそう。
- 自分の弱点が分かったのでそれをつぶしていけるように変化したい。
- 自分の良さ・いけない所を理解できたので、あと1年と半年の中で良い所は伸ばし、いけない所は改善していきたいと思います。
- 積極性の他の所でも活かしていけると思うから。
- ゼミナールへ配属される先輩への関わり方が変わりそうと思います。
- 残り短い学生生活ではあるが、今できるうちに矯正なり自分のスキルアップにつなげたい。

### 【どちらともいえない】

- 自分が自身の改善したい点を再認できた。
- 正直な所、このプログラムで自分自身が意識的に理解したという訳でなく、無意識の内に変化したという方が正しく感じたので、実感があまりないものの期待はしている。
- 生活の変化はあまりなさそう。
- 周りの意見をしっかりと聞くようにしたい。

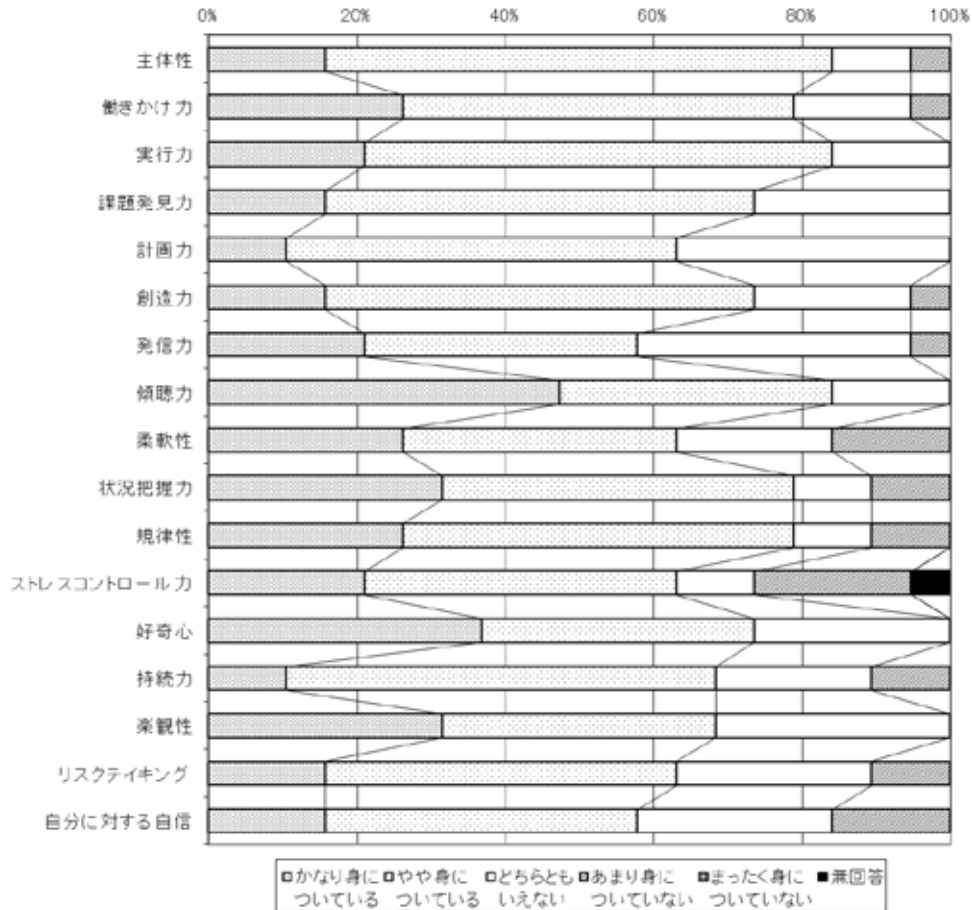
### 【あまり変化しない】

- いつも通りの日常を過ごすと思います。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計

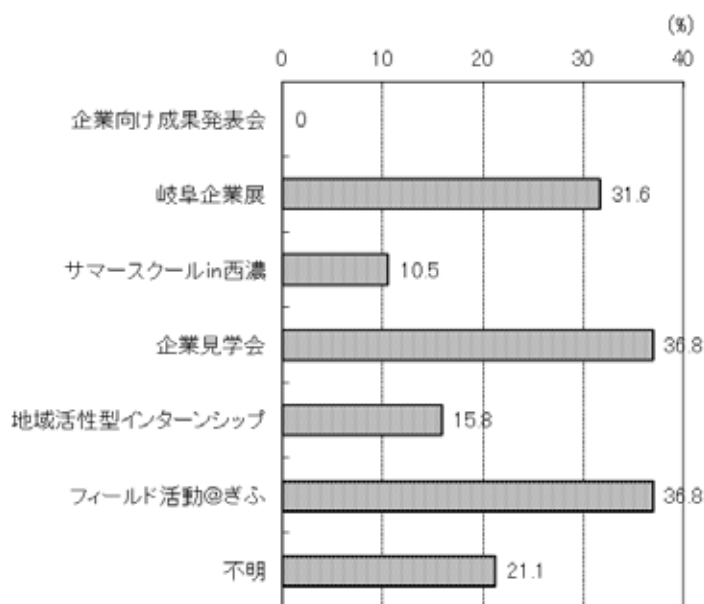
Q7. このプログラムを通じて、どのような力や姿勢が身についたと思いますか？



(%)

	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身につっていない	まったく身につっていない	無回答
主体性	19	15.8	68.4	10.5	5.3	0.0	0.0
働きかけ力	19	26.3	52.6	15.8	5.3	0.0	0.0
実行力	19	21.1	63.2	15.8	0.0	0.0	0.0
課題発見力	19	15.8	57.9	26.3	0.0	0.0	0.0
計画力	19	10.5	52.6	36.8	0.0	0.0	0.0
創造力	19	15.8	57.9	21.1	5.3	0.0	0.0
発信力	19	21.1	36.8	36.8	5.3	0.0	0.0
傾聴力	19	47.4	36.8	15.8	0.0	0.0	0.0
柔軟性	19	26.3	36.8	21.1	15.8	0.0	0.0
状況把握力	19	31.6	47.4	10.5	10.5	0.0	0.0
規律性	19	26.3	52.6	10.5	10.5	0.0	0.0
ストレスコントロール力	19	21.1	42.1	10.5	21.1	0.0	5.3
好奇心	19	36.8	36.8	26.3	0.0	0.0	0.0
持続力	19	10.5	57.9	21.1	10.5	0.0	0.0
楽観性	19	31.6	36.8	31.6	0.0	0.0	0.0
リスクテイキング	19	15.8	47.4	26.3	10.5	0.0	0.0
自分に対する自信	19	15.8	42.1	26.3	15.8	0.0	0.0

Q8. 「地域活性化リーダー」に向けた活動で、興味のあるプロジェクトは何ですか？（複数回答可）



興味のあるプロジェクト(複数回答可)

	件数	%
企業向け成果発表会	0	0.0
岐阜企業展	6	31.6
サマースクールin西濃	1	5.3
企業見学会	7	36.8
地域活性化型インターンシップ	2	10.5
フィールド活動@ぎふ	7	36.8
不明	5	26.3
全体	19	100.0

## 2. 活動報告＜学内プログラム＞

### 「PBLぎふゼミ」アンケート集計



Q9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

#### フリーコメント（Q1の満足度別）

##### 【とても満足した】

- 1つ1つの課題でどのようなことが発見できるのかわかりました。とても分かりやすく楽しかったです。
- 明るくて楽しいと感じました。
- いきいきと今回のプログラムについて教えてくださったので、話を聞いていると明るい気持ちになって自分たちにもこのプログラムがちゃんとできそうと前向きに頑張れました。また、様子を見に来てくれた際、本当に意見に対し何かを言うことがなかったので自分たちの力だけで課題を達成しなくてはという力につながりました。
- 関西人はどうして人を笑わせるのが上手か知りたいです。
- コミュニケーションのことなどについて分かりやすく解説をしていただいたのでとても自分自身の力になったと思う。
- 実習以外の話の時は自分たちが退屈にならないように話を盛り上げていた。とても面白い講師だなと感じました。
- 説明をする時や講義をする上で声のトーンや態度を変化することでより自分達が理解することができやすかったと思います。
- とても話やすくとても聞きやすかった。講師の方から心を開いてくれたので自分なりに聞く耳がたてた。
- とても分かりやすいプログラムでした。グループの人と協力したりすることがちゃんとできました。ありがとうございました。
- 話が分かりやすく聞きやすかった。
- 優しく、生徒には強制せずに自ら考えて行動するシステムで、とても成長できたと思います。

##### 【満足した】

- 基本的にテンションが高く、話に緩急があったので話の上手な人だとは思いました。また、個々(参加者)に対する気配りが見れる一面もあった。さらに、プレゼントカードの説明の際にあまり多く会話をしていないだろう参加者に向けてプレゼントカードの内容を用意していたあたり、かなりの観察力の持ち主だと思いました。
- 興味深いプログラムや自分自身の改善点の発見、現状を上手く理解させ、どうするべきかを説いてくれたともう。
- 例えがあったりと話が分かりやすくイメージしやすかった。
- とても聞きやすくいい講師だと思った。
- 話し方が面白く、聞いていて楽しかったです。
- 話し方が上手だなと感じた。ただただ真面目な話をするだけでなくおもしろいところを



つくって相手(聞き手)を自分に向けるのがとてもうまいと感じました。

- 話しやすかった。
- 分かりやすいし面白い人だと感じた。

## 2. 活動報告<学内プログラム>

### 「PBLぎふゼミ」アンケート集計

Q10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

#### フリーコメント（Q1の満足度別）

##### 【とても満足した】

- 1～4年生色々な幅の人がいるんだと感じました。
- 2日間最初は不安でしたが、頑張ることができました。ありがとうございました！
- 2日間やってみてとても楽しかったです。
- こういったグループワークはやらないと楽しさや面白さを感じないんだと思った。
- コミュニケーションとは何かがわかってよかった。
- 最初は長い二日間だと思っていたけれど、終わってみたらすぐで、もっと続けたいとも思いました。自分に力がつくことばかりなのに楽しいプログラムでした。
- 自己理解・自分の知らない力や足りない力を再確認することができました。
- 自分自身に見つかることはないだろうと思った性格について、意外にも相手にしゃべっていけるんだと感じました。
- 自分の弱い部分や強い部分を知ることができた。
- 楽しかったです。グループの人とも仲良くなれたと思います。
- とても良いプログラムだと思うのでもっと生徒に勧めた方が良かったと思った。

##### 【満足した】

- 2日という長い時間を用いて、改めて人は己と他者を理解しようとする事の大切さを学んだ。
- 色々な人とコミュニケーションとれて良いなあと思った。
- 他学科の人ばかりで緊張していたが話し合いや課題にみんなで取り組むことで徐々に和んでいき、いろんな話ができる。
- 楽しく学ぶことができました。
- とても良い機会だと感じた。
- 人と意見を交えながら討論するのは楽しかった。
- 悪いことかはわからないが、少々時間が長いと思った。





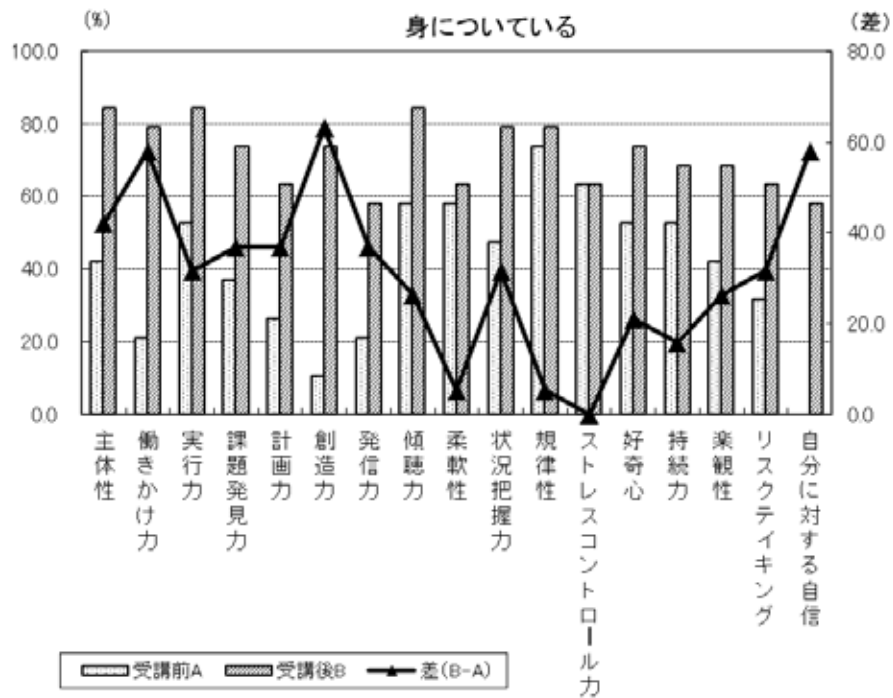
受講前・受講後比較  
(社会人基礎力)

2. 活動報告<学内プログラム>

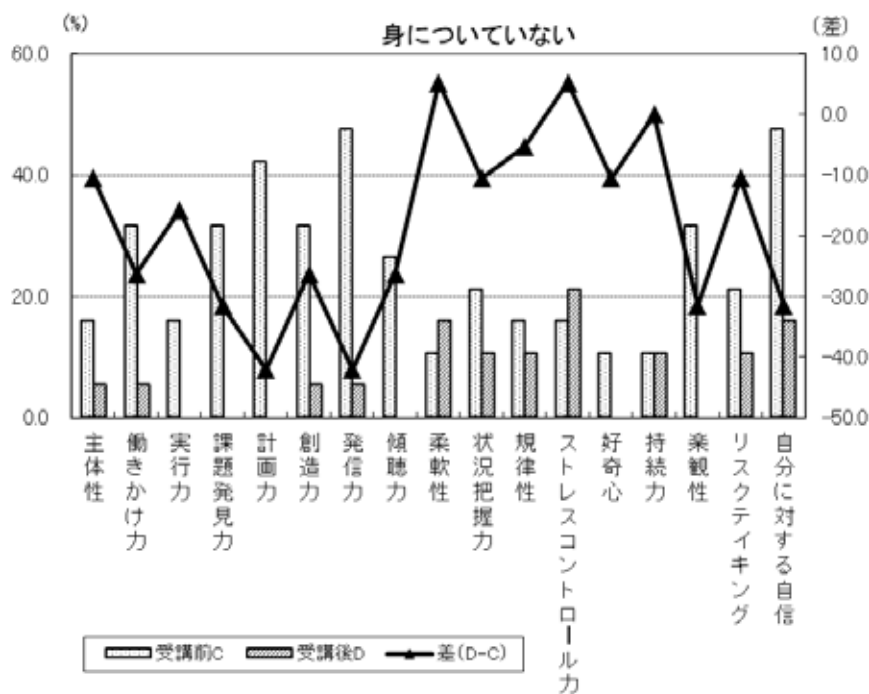
『PBLぎふゼミ』アンケート集計

受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？

受講後Q：このプログラムを通じて、どのような力や姿勢が身についたと思いますか？



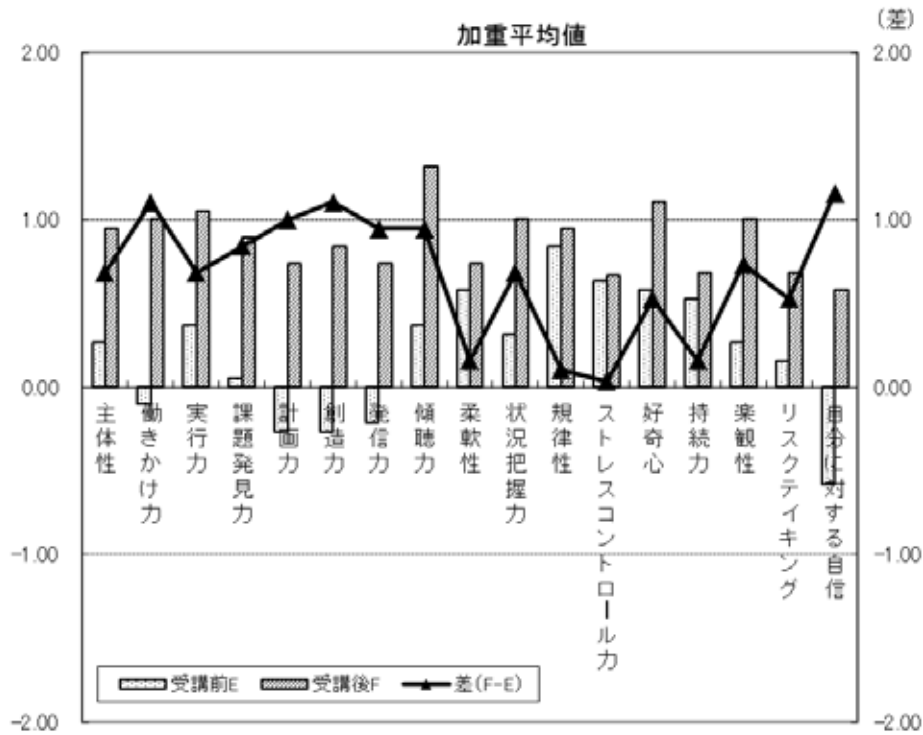
	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	42.1	84.2	42.1
働きかけ力	21.1	78.9	57.9
実行力	52.6	84.2	31.6
課題発見力	36.8	73.7	36.8
計画力	26.3	63.2	36.8
創造力	10.5	73.7	63.2
発信力	21.1	57.9	36.8
傾聴力	57.9	84.2	26.3
柔軟性	57.9	63.2	5.3
状況把握力	47.4	78.9	31.6
規律性	73.7	78.9	5.3
ストレスコントロール力	63.2	63.2	0.0
好奇心	52.6	73.7	21.1
持続力	52.6	68.4	15.8
楽観性	42.1	68.4	26.3
リスクテイキング	31.6	63.2	31.6
自分に対する自信	0.0	57.9	57.9



	身につけていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	15.8	5.3	-10.5
働きかけ力	31.6	5.3	-26.3
実行力	15.8	0.0	-15.8
課題発見力	31.6	0.0	-31.6
計画力	42.1	0.0	-42.1
創造力	31.6	5.3	-26.3
発信力	47.4	5.3	-42.1
傾聴力	26.3	0.0	-26.3
柔軟性	10.5	15.8	5.3
状況把握力	21.1	10.5	-10.5
規律性	15.8	10.5	-5.3
ストレスコントロール力	15.8	21.1	5.3
好奇心	10.5	0.0	-10.5
持続力	10.5	10.5	0.0
楽観性	31.6	0.0	-31.6
リスクテイキング	21.1	10.5	-10.5
自分に対する自信	47.4	15.8	-31.6

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ』アンケート集計



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.26	0.95	0.68
働きかけ力	-0.11	1.00	1.11
実行力	0.37	1.05	0.68
課題発見力	0.05	0.89	0.84
計画力	-0.26	0.74	1.00
創造力	-0.26	0.84	1.11
発信力	-0.21	0.74	0.95
傾聴力	0.37	1.32	0.95
柔軟性	0.58	0.74	0.16
状況把握力	0.32	1.00	0.68
規律性	0.84	0.95	0.11
ストレスコントロール力	0.63	0.67	0.04
好奇心	0.58	1.11	0.53
持続力	0.53	0.68	0.16
楽観性	0.26	1.00	0.74
リスクテイキング	0.16	0.68	0.53
自分に対する自信	-0.58	0.58	1.16

#### **(4) 企業現場教育**



## 訪問企業 一覧 (平成29年度)

## 工学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	機械工学科	コダマ樹脂工業(株) 横井工場・池田工場	55
2	建築学科	美濃市うだつの町並み、中部電力 奥美濃水力発電所	56
3	応用化学科	岐阜プラスチック工業(株) TECCELL事業部	57
4	電気システム工学科	ダイオーエンジニアリング(株) 可児工場	58
5	電子情報工学科	イビデン(株)	59
6	電子情報工学科	メイラ(株) 関工場	60
7	都市建設工学科	(都)長良川糸貫線 橋梁上部工工事、 ((株)安部日鋼工業、昭和コンクリート工業(株)) 新堀川排水機場 (国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所)	61
8	情報工学科	(株)セイノー情報サービス ソフトピア事業所	62

## 経営情報学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	経営総合学科	(株)オンダ製作所	63

## 人文学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	コミュニケーション学科	岐阜放送、岐阜新聞	64

## 応用生物学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)ミツカンサンミ 美濃加茂工場、 キッコーマンソイフーズ(株)岐阜工場	65
2	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)岐阜セラック製造所、 エイキット(株)岐阜工場	66
3	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	生活協同組合 コープぎふ(本社)、 エーザイ(株)川島工園	67
4	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)秋田屋本店 洞戸工場	68
5	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	ツキオカフィルム製薬(株)、 岐阜県公衆衛生検査センター	69
6	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)サラダコスモ/ちこり村、中津川サラダ農園	70
7	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	天野エンザイム(株)岐阜研究所	71
8	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	美濃酪農農業協同組合連合会	72
9	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	アピ(株)池田工場、 EW Nutrition japan 岐阜免疫研究所	73

## 2. 活動報告<学内プログラム>

### 生命健康科学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	スポーツ保健医療学科	(株)今仙技術研究所	74

### 現代教育学部





No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	幼児教育学科 現代教育学科	(株)文溪堂	75

### その他




No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	キャリア形成支援プログラム	(株)アイコットリョーワ	76






## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 7月 24日 ( 金 )		
訪問先企業名	コダマ樹脂工業株式会社 横井工場・池田工場		
参加者	工学部 機械工学科 4年生	参加人数	16名 (うち引率 1名)
引率者氏名	鈴木 浩文 (工学部 機械工学科 教授)		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会社概要、ブロー成形による樹脂容器の技術的説明があった。(写真1)</li> <li>・ 雨水備蓄タンク、半導体製造試薬容器など、地域・活性化を目指した製品の研究開発についての説明があった。(写真2)</li> <li>・ 製造現場におけるリスク予防管理に関する企業としての説明があった。(写真1)</li> <li>・ 阪神淡路、東日本、熊本震災において飲料水用容器、トイレ、燃料の輸送のための貢献などについて説明があり、失敗談、その積み重ねによる改善などの地域貢献、リスク予防管理についての実施例を聞いた。(写真1)</li> <li>・ 自社製品におけるCO2排出量などが計算され、CO2削減のための取り組みが十分に行われている優良企業であることがわかった。</li> </ul>		
			
	写真1 会社概要, 技術の説明	写真2 工場見学 (クリーンルーム)	
			


企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2017年 8月 14日 ( 月 )</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>美濃市うだつの町並み、中部電力 奥美濃水力発電所</p>		
<p>参加者</p>	<p>工学部 建築学科 3年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>20名 (うち引率 2名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>山羽 基(工学部 建築学科 教授) 横江 彩(工学部 建築学科 助教)</p>		
<p>内容</p>	<p>&lt;美濃市うだつの町並み見学&gt; 日本の伝統的住宅の防火壁として形成された「うだつ」を保存した地元の伝統的建築、伝統産業である製紙業を観光資源として生かした地域活性化の事例について学習した。また、うだつに造営に費用がかかることから、「うだつが上がらない」が生活や地位が向上しないことを示すことの語源となったことを学んだ。</p> <p>&lt;中部電力奥美濃発電所&gt; 夜間電力を利用して水を汲み上げ電力需要に合わせて放電する揚水発電の仕組みと社会的意義について説明を受けた。発電所は揚水発電の下池にあり、ダムとダム湖を見た後、地下発電所を見学した。6台の発電機で150万kWの最大出力を持つ発電施設の発電機の流量制御機構、発電機シャフトを見た。運用は無人で行われていること、全出力まで2分で立ち上がること、現場の制御卓の機能などの説明を受けた。当日は、定期点検が行われており、発電機の交換部品、重機、資材などが安全に考慮して設置されていることを学習した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>美濃市うだつの町並み</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>奥美濃発電所 ダム上部</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>奥美濃発電所 地下発電所内部</p> </div>		

## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 8月 29日 ( 火 )		
訪問先企業名	岐阜プラスチック工業株式会社 TECCELL事業部		
参加者	工学部 応用化学科 1～4年生	参加人数	27名 (うち引率 1名)
引率者氏名	藪内 一博 (工学部 応用化学科 准教授)		
内容	<p>会議室において、会社概要や当工場で製造しているテクセルを中心とした製品・技術の説明を受けた。その後、ショールームに移動し、テクセルの実物およびそれを利用した製品(消音機能等)を実際に体験した。</p> <p>続いて、製造現場である工場の見学を行った。安全確保のため帽子を着用し、敷地内にある4棟のうち3棟を見学した。主に、出来上がった板状のテクセルを加工する現場(切断、圧着、成型など)やテクセルを構成するシート状の樹脂を製造する押し出し装置を見学した。</p> <p>見学後、会議室に戻り、約15分間、質疑応答を行った。 テクセルに関するものから安全管理に関するものまで幅広く質問が出た。</p>		
	  		

## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 4日 ( 月 )		
訪問先企業名	ダイオーエンジニアリング(株)可児工場		
参加者	工学部 電気システム工学科 3年生 工学研究科大が員博士後期および 修士課程学生	参加人数	14名 (うち引率 2名)
引率者氏名	廣塚 功 (工学部 電気システム工学科 教授) 松本 純 (工学部 電気システム工学科 助教)		
内容	<p>大王製紙 可児工場において、機器のメンテナンスなどを行っている掲題の会社見学を行った。可児工場においては様々な紙製品をチップ(木片)から出荷状態に至るまでの一貫生産を行っており、今回はトイレットペーパーおよびティッシュペーパーの製造工程を見学した。製紙機は非常に大きく、また、原紙ローラーは直径2m、重量10t以上であり、トイレットペーパーやティッシュペーパーの最終段階では 100m/分以上の高速で紙を流している。また、製紙状況によっては紙の粉塵が工場内を舞っており、火気厳禁であることはもちろん、床に溜まった紙片での転倒などの危険がある。従って、その取扱いや機器メンテナンスにおいては十分なリスク管理が行われ、無災害 300 日以上の実践などに関する説明を受けた。また、大容量かつ高速な機器のメンテナンスでの注意点などを知ることができ、見学者一同大変有益であった。</p> 		



## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 13日 ( 水 )		
訪問先企業名	イビデン株式会社		
参加者	工学部 電子情報工学科 他1学科 2、3、M1年生	参加人数	42名 (うち引率 2名)
引率者氏名	内田 秀雄 (電子情報工学科 准教授) 中野 由崇 (電子情報工学科 教授)		
内容	<p>はじめに会社概要と見学上の注意事項を聞いた後、本社研修センターの資料室と大垣事業所のパッケージ基板製造工程を4班に分かれて見学を行った。資料室では100年以上続くイビデンの歴史と物作りの変遷をダーウィンの進化論に重ね合わせて説明いただいた。製造工程では、学生たちはその微細な製品に感心するとともに、製造はクリーンルームを活用していること、そのクリーン度が規格値の100倍良好な状態に保つなど品質管理に対する意気込みを感じ取っている様子であった。見学の後、先輩社員(機械工学科卒業生)の仕事内容の紹介を受けた。質疑応答は、社員として働くことや事業内容についてなど、9件の質問で予定していた時間を超えて活発に行われた。</p>    		



企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2017年 9月 14日 ( 木 )</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>メイラ株式会社 関工場</p>		
<p>参加者</p>	<p>工学部 電子情報工学科 2・3年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>18名 (うち引率 1名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>服部公央亮 (工学部 電子情報工学科 助教)</p>		
<p>内容</p>	<p>自動車部品の螺子を中心に製造している関第一工場を見学させて頂いた。 見学の説明は、中部大学 機械工学科 卒業生にして頂いた。 見学後、自動車・航空機/宇宙機・メディカルにそれぞれ関わる若手エンジニアを囲み、学生を3グループに分け、ローテーションで質疑応答の場を設けて頂いた。 学生は、企業/製品に関わる事、仕事に関する事など思い思いの疑問をぶつけ、有意義な時間を過ごせたかと思う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>		

## 企業現場教育 報告書


実施日	2017年 12月 8日 ( 金 )		
訪問先企業名	(都)長良川糸貫線 橋梁上部工工事 ((株)安部日鋼工業、昭和コンクリート工業(株))、 新堀川排水機場 (国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所)		
参加者	工学部 都市建設工学科 2・3 年生	参加人数	41名 (うち引率2名)
引率者氏名	磯部 友彦(工学部 都市建設工学科 教授) 伊藤 睦(工学部 都市建設工学科 准教授)		
内 容	<p>【(株)安部日鋼工業、昭和コンクリート工業(株)】</p> <p>公共 社会資本整備総合交付金事業(街路事業)</p> <p>(都)長良川糸貫線橋梁上部工工事において、地域活性化のための事業概要を学ぶと共に、橋梁建設工事の概要、建設過程、事故防止のための安全対策などについての説明および現場見学を行った。</p> <p>また、現場技術者から、技術者としての役割や仕事のやりがいなどについて話を伺った。</p> <p>【国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所】</p> <p>排水機場周辺は、大雨時に水がたまりやすい内水地区が複数ある。</p> <p>地区の内水氾濫リスクを低減するための排水機場の役割を学ぶと共に、施設にて排水機場内の設備を見学し、その運用に対する電源喪失、故障などの様々なリスクに対する対応策について学んだ。</p>		
			
	橋梁内見学風景		排水機場内見学風景

## 企業現場教育 報告書





実施日	2018年 2月 21日 ( 金 )		
訪問先企業名	(株)セイノー情報サービス ソフトピア事業所		
参加者	工学部 情報工学科 3年生	参加人数	15名 (うち引率 1名)
引率者氏名	鈴木 裕利 (工学部 情報工学科 准教授)		
内容	<p>岐阜県大垣市の(株)セイノー情報サービス様を訪問して、以下の内容で企業現場教育を行った。</p> <p>&lt;講義&gt; 総務部の方より、会社概要・職種・職場環境に関する講義を受けた。</p> <p>&lt;現場教育&gt; 3種類の部署で、代表の社員から実際の業務に関する説明を受けた。</p> <p>&lt;座談会&gt; 4名の社員に対して、学生参加者から質問を行って、回答を受けた。</p> <p>各参加者、非常に熱心な態度で、受講、質問等を行っており、大変有意義な企業現場教育となった。</p>		
			





## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 11日 ( 月 )		
訪問先企業名	(株)オンダ製作所		
参加者	経営情報学部 経営総合学科 1・2年生	参加人数	46名 (うち引率 3名)
引率者氏名	澤村 隆秀(経営情報学部 経営総合学科 教授) 山口 直樹(経営情報学部 経営総合学科 教授) 趙 偉 (経営情報学部 経営総合学科 教授)		
内容	<p>会社の概要説明があり、その後2グループに別れ各部署を見学させていただき、各部署で説明が行われた。最後に全員を集めて、総括と質疑がなされた。</p> <p>オンダ製作所は水道の配管を製造・販売する企業であり、それらの具体的な内容やインフラの大切さ、競合企業の実情等を含めて説明をいただいたうえでの見学であったので、大変充実したものであった。最後の質疑応答は企業現場教育の実施対象が1・2年生ということもあって全くなかったが、見学中に社員の方に業務内容や製造工程の特色など質問する学生もいたので概ね順調に終了した。</p> 		


企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2017年 9月 15日 ( 金 )</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>岐阜放送、岐阜新聞</p>		
<p>参加者</p>	<p>人文学部 コミュニケーション学科 1、3年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>10名 (うち引率 1名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>三摩 真己 (人文学部 コミュニケーション学科 教授)</p>		
<p>内容</p>	<p>午前中、岐阜放送を訪問。番組制作現場、報道現場の見学と質疑を行う。                  午後は岐阜新聞を訪問。夕刊の印刷現場を見学。また報道部、整理部を訪ね                  地元と密着した地方紙の取材。編集方針を伺うとともに、正確な情報を収集するためには                  何が必要なのかについて説明を受けた。                  また時間とともに新たな情報が次々と寄せられた場合に、どのように記事を差し替え、紙面                  を造り替えていくのかについて説明を受けた。                  質疑応答では、学生からは正確な情報を提供するために必要なことは何かなどの質問が                  あり、岐阜新聞側からは、多くの入手できる情報を比較検討する事、また、現場を訪ね、自                  らの目で確認することが重要であるとの返答を頂いた。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>		




## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 12日 ( 火 )		
訪問先企業名	(株)ミツカンサンミ 美濃加茂工場、キッコーマンソイフーズ(株)岐阜工場		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 3年生	参加人数	34名 (うち引率 2名)
引率者氏名	塚本 義則 (応用生物学部 応用生物化学科 教授) 森山 昭彦 (応用生物学部 環境生物科学科 教授)		
内容	<p>&lt;(株)ミツカンサンミ 美濃加茂工場&gt;</p> <p>取扱商品の特徴と生産ラインの説明ののち、4班に別れて、ドライ工場とチルド工場の2箇所、納豆と豆乳鍋つゆの製造工程並びに、安全管理に重点をおいた説明を受けた。見学者用に、専用上履き、紐付きボールペン、使い捨ての帽子、メガネ並びに白衣が用意されており、異物混入を避けることへの行き届いた配慮を身を持って体験した。</p> <p>&lt;キッコーマンソイフーズ(株)岐阜工場&gt;</p> <p>取扱商品と生産ラインについての説明を受けたのち、2班に分かれて、ガラス越しに生産工程を見学した。また、本学出身の社員から安全管理について、食品安全マネジメントシステム FSSC22000 認証などのミニ講義を受けた。</p> <p>どちらの工場でも、見学後に学生から多方面にわたる質問があり、関心の高さが伺われた。特に、食品を生産している現場における安全管理(食品と従業員)を体験して、学生それぞれに得るものがあり、満足したようである。</p> <p>また、忙しい中にもかかわらず多くの社員の方々が親切に対応してくださったことには感謝したい。</p>		
	 		


## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 13日 ( 水 )		
訪問先企業名	(株)岐阜セラツク製造所、エイキット(株)岐阜工場		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2,3年生	参加人数	14名 (うち引率 1名)
引率者氏名	武井 史郎 (応用生物学部 環境生物科学科 講師)		
内容	<p><b>【(株) 岐阜セラツク製造所】</b>          到着後、はじめに岐阜セラツク社に関する説明会と質疑応答が行われた。説明会では、岐阜セラツク社社長の吉田稔氏による同社の歴史と企業理念に関する説明のほか、同社製品に関する説明を、それぞれしていただいた。また、学生からの質問応答を随時行われ、同社の就職に関する活発な議論がなされた。その後は同社の工場見学を行われ、研究開発部門における機械設備の紹介のほか、実際に勤務されている研究員の方への質疑応答も行われた。</p> <p><b>【エイキット(株)岐阜工場】</b>          同社のご厚意により、当初の予定よりも30分早く見学会を開始していただいた。エイキット社では人事課担当者にご対応いただき、はじめに同社の説明会が行われた。説明会ではエイキット社のご紹介を一通りしていただいたほか、アイスブレイキング等を交えた親密な質疑応答により、活発な議論が行われた。説明会の後は同社の設備を案内していただき、計測事業部門、試験事業部門、分析事業部門を見学した。見学の際には、それぞれの部門における職員の方に説明をしていただいたほか、学生からの質疑応答にも応じていただいた。</p>		
			



## 企業現場教育 報告書

実施日	2017年 9月 14日 ( 木 )		
訪問先企業名	生活協同組合コープぎふ(本社)、エーザイ(株)川島工園		
参加者	応用生物学部 FR、FS 3年生	参加人数	16名 (うち引率 1名)
引率者氏名	山本 敦 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授)		
内容	<p>10時～12時 生活協同組合コープぎふ(本社)を見学 コープぎふは、プレ就活の体をなしており、職場を挙げての企業説明会であった。</p> <p>13時30分～15時00分 エーザイ(株)川島工園を見学 エーザイは、工場の一般見学コース以外に薬草園(薬木園)を案内していただいた。 本来の目的から外れるが、薬用植物に関する講義の無い本学部生にとって貴重な体験であったと思われた。</p> <div style="text-align: center;">  <p>生活協同組合コープぎふ(本社)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">エーザイ(株)川島工園</p>		




## 企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 13日 ( 火 )		
訪問先企業名	(株)秋田屋本店 洞戸工場		
参加者	応用生物学部 食品栄養科学科、応用生物化学科 3年生	参加人数	12名 (うち引率 1名)
引率者氏名	和田 俊夫(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)		
内容	<p>1804年秋田杉を扱う材木商として創業。</p> <p>明治になり秋田杉の特性を生かし養蜂用の巣箱を生産し、養蜂業へと発展し、養蜂関連製品を生産。一方、洞戸工場では近隣の名水源を利用し森永製菓のウィダー製品を24時間フル操業でOEM生産している。</p> <p>洞戸工場はHACCPと総合衛生管理製造過程の両方について認定を受けている。日頃からCCPを明確にしてより安全、安心な製品作りを心がけている。</p> <p>2班に分かれ、ウィダー製品の製造ラインを見学。容器の組み立て、製品の充填、殺菌、製造日印字、梱包、倉庫保管、出荷までの流れを見学。見学後、質疑応答があり、養蜂がなぜウィダーのOEMと結びついたか、従業員がなぜヘッドフォンをつけているか、不良品の発生率とその処置などの質問に回答いただいた。学生は、工場がロボット化されており、従業員の少なさを実感していた。</p>		
			

## 企業現場教育 報告書



実施日	2018年 2月 16日 ( 金 )		
訪問先企業名	ツキオカフィルム製薬(株)、岐阜県公衆衛生検査センター		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生	参加人数	10名 (うち引率 2名)
引率者氏名	武井史郎 (応用生物学部 環境生物科学科 講師) 可児由香 (応用生物学部事務室 担当課長)		
内容	<p>&lt;ツキオカフィルム製薬(株)&gt; はじめにツキオカフィルム製薬に関するパワーポイントを用いた説明をしていただき、その後に、同社の工場見学および製品紹介が行われた。各部門における機械設備や製品を実際に見学しながら紹介していただいたほか、学生からの質問応答が随時行われ、同社の就職に関する活発な議論がなされた。</p> <p>&lt;岐阜県公衆衛生検査センター&gt; 検査分析部 次長様、および当学部の卒業生にご対応いただき、同センターの説明会が行われ、同センターのご紹介を一通りしていただいたほか、親密な質疑応答による活発な議論が行われた。その後に同センターの設備を案内していただいた。 見学の際には、それぞれの部門における職員の方に説明をしていただいたほか、学生からの質疑応答にも応じていただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ツキオカフィルム製薬(株)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>岐阜県公衆衛生検査センター</p> </div> </div>		

企業現場教育 報告書



<p>実施日</p>	<p>2018年 2月 16日 ( 金 )</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>(株)サラダコスモ/ちこり村、中津川サラダ農園</p>		
<p>参加者</p>	<p>応用生物学部 全学科 2・3 年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>9名 (うち引率 1名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>中川 大(応用生物学部 食品栄養科学科 講師)</p>		
<p>内容</p>	<p>株式会社サラダコスモが所有する中津川サラダ農園にて、スプラウト類の栽培現場と出荷までの過程を見学した。</p> <p>その後、ちこり村に移動し、施設内にある会議室にて、「食の安全」に対する株式会社サラダコスモの取り組みを中心に同社の事業内容の紹介を受けた。</p> <p>その後、ちこり村職員による案内の下、施設内にある見学施設にて「ちこり」とその生産方法、商品開発の過程を見学した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		





## 企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 19日 ( 金 )		
訪問先企業名	天野エンザイム(株)岐阜研究所		
参加者	応用生物学部 応用生物学科 環境生物科学科 2・3年生	参加人数	9名 (うち引率 1名)
引率者氏名	森山 昭彦 (応用生物学部 環境生物科学科 教授)		
内容	<p>小型バス1台で学生8人を引率して、天野エンザイム(株)岐阜研究所を訪問した。研究所は、各務ヶ原市郊外の緑豊かで閑静なテクノ団地にあった。建物は、世界的建築家である黒川紀章氏と Richard Rogers 氏の設計であり、オレンジのフレームが目立つ外観が周囲の緑とよくマッチしていた。会議室にて、ビデオにより酵素について全般的な解説を受けた後、所内を見学した。実験台のある実験室は遺伝子汚染対策がなされている大部屋であった。パイロット培養用タンクが十数台設置されている培養室は、大学の学生実験室とはスケールが異なっており、さすが企業の研究室であると感じさせられた。質問時間には、学生は、就職の可能性を意識してか、職場環境に関するものを中心に、多数の質問をしていた。研究員の学歴や男女比、英語研修の機会や海外支店への出張の可能性、新入生の宿舎などに関する事などである。訪問予定時間を30分近くオーバーしたにもかかわらず、担当者の方々には終始丁寧に対応していただき、学生達には収穫があったと思われる。研究所見学の機会はそれ程多くはないので、貴重なご意見、経験となった。</p>		
	 		



## 企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 20日 ( 火 )		
訪問先企業名	美濃酪農農業協同組合連合会		
参加者	応用生物学部 R・S・T1 学科 2、3、4 年生	参加人数	7名 (うち引率 1名)
引率者氏名	根岸 晴夫 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授)		
内 容	<p><b>1. 見学先の概要</b></p> <p>美濃酪農農業協は、めぐみの農協・東美濃農協・西美濃農協・ぎふ農協・岐阜県信連の出資で組織運営。主力は乳・乳製品の製造販売、飼料等の販売等。</p> <p><b>2. 見学内容</b></p> <p>①中部大卒業生(2016年人文卒)が案内係を担当し、原乳受け入れから殺菌までの工程、牛乳紙パック、ヨーグルト製造の充填以降のラインを見学した。</p> <p>②見学後、講義室にて、営業部長より、美濃酪農農業協の概要について説明を受けた。説明中に、200ml ブリックパック牛乳とヨーグルト製品を試食した。</p> <p>③次に、品質管理課長より、低温殺菌牛乳製造における品質上の留意点について、HACCP 管理基準に従って説明があった。</p> <p>④最後に、総務課長より、2018年度の採用予定を中心に、就職に関わる内容についての説明を受けた。</p> <p>⑤質疑応答の時間では、ほぼ全員の学生が質問をするなど、全般に見学態度は熱心で良好であった。</p>		
			




## 企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 23日 ( 金 )		
訪問先企業名	アピ(株)池田工場、EW Nutrition Japan 岐阜免疫研究所		
参加者	応用生物学部 応用生物化学科 2・3年生 環境生物科学科 3・4年生	参加人数	9名 (うち引率1名)
引率者氏名	堤内 要 (応用生物学部 応用生物化学科 教授)		
内容	<p>&lt;アピ(株)池田工場&gt;</p> <p>事業紹介と見学の注意点を指導して頂いた後、生産現場の見学に向かった。入室前に白衣、帽子、マスク、オーバーシューズを着用し、二重シャッターを通過して入って行った。見学したのは、ハードカプセル充填機や打錠機、錠剤検査室、給袋充填室、ボトル充填室、箱詰室、スティック充填機、ソフトカプセル充填室、ソフトカプセル乾燥室、ソフトカプセル検査室であった。不良品を出さないという意識が十分に感じられる仕事ぶりを随所に窺うことができ、学生も大変勉強になったと思われる。見学後のミーティングでは質問が次々となされ、学生らの意識の高さを感じることができた。</p> <p>&lt;EW Nutrition Japan 岐阜免疫研究所&gt;</p> <p>1時間ほど、会社や製品の説明を受けた。日本における会社の規模は小さいが、実は非常に高い技術力を持った大変安定した会社であることがわかった。講義の後の質疑応答では、再び活発な質問がなされた。印象的だったのは、アピでは、どんな知識や資格が必要かという学生の問いに対し、『特にそんなものはない。大学院進学が好ましいわけでもない。ただ、自分自身で考え、次の一手を考えることができるような人材が好ましく、ゆえに、結果として大学院生が多くなる傾向がある。』という回答であったのに対し、EW Nutrition Japan 岐阜免疫研究所では、英語ができたほうがよい、とか具体的な提案が頂けたことである。研究所内も実に詳しく見せて頂くことができ、非常に生き生きと研究をされている姿が印象的であった。</p>		
	 		

## 企業現場教育 報告書





実施日	2017年 12月 8日 ( 金 )		
訪問先企業名	株式会社 今仙技術研究所		
参加者	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 1年～3年生 生命医科学科 3年生	参加人数	24名 (うち引率 3名)
引率者氏名	西垣 景太 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 講師) 馬場 礼三 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教授) 山下 玲香 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 助手)		
内容	<p>岐阜県各務原市で、電動車いすや義手・義足を製造する(株)今仙技術研究所での企業現場教育を行った。参加は、生命健康科学部スポーツ保健医療学科の学生を中心に生命医科学科の学生も含めて21名の参加と、引率教員3名であった。到着後、企業についての説明を受け、2グループに分かれての体験・見学を行った。</p> <p>電動車いすの種類の高さや、パラリンピックに出場するアスリートが使用している義足等を実際に触れる機会は、非常に貴重な機会であったと感じる。質疑応答でも、今後の東京2020パラリンピックに向けての話や、障害者スポーツ普及に向けての意見交換等が行われ、生命健康科学部の学生として、身近に感じておくべき話題や知識について触れることができていた。</p> <p>今後の学生のキャリア支援の1つとしても、広い視野を持って自分の方向性を検討し、社会貢献にもつながるような仕事についてくれる学生が増えることも願う所である。やはり、正課内の学びにとどまらず、課外での学びを多く経験し、それをいかに正課内の学びにつなげていけるかが学生生活では重要であると感じる。</p>		
	 		

## 企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 2日 ( 金 )		
訪問先企業名	株式会社 文溪堂		
参加者	現代教育学部現代教育学科 2、3、4年生	参加人数	15名 (うち引率 1名)
引率者氏名	宮川 秀俊(現代教育学部 現代教育学科 教授)		
内容	<p>予定より早く、午後1時10分に文溪堂に到着した。</p> <p>1時20分頃より、早めに会社紹介が始まり、約50分の会社説明の後、質疑応答が行われた。学生からの質問が多く、2時30分頃まで続いた。</p> <p>その後、会社内の企画・編集部、出版部、出荷部等の職場を見学して、それぞれの部署の方から、説明を受けた。</p> <p>最後に、会社約100年の教材資料館を見学したが、ここでも学生の見学意欲が旺盛で、出発予定の3時30分まで時間を使い切った。</p> <p>会社の方から、このような学生の積極的な見学は初めてであるとの、ありがたい言葉をいただいた。</p>		
			
	 		

2. 活動報告<学内プログラム>

企業現場教育 報告書

実施日	2018年 2月 19日 ( 月 )		
訪問先企業名	(株)アイコットリョーフ		
参加者	人文学部 歴史地理学科、心理学科 2年生 国際関係学部 国際関係学科 3年生	参加人数	8名 (うち引率 2名)
引率者氏名	西田 豊昭 (経営情報学部 経営総合学科 教授) 小島 愛理 (キャリア支援課)		
内容	<p>会社説明の概略を社長様より説明いただいた後、業界説明を人事から説明いただいた。</p> <p>工場内は製造部部長の説明の下、タイルの製造工程を見学。</p> <p>デザインセンターで中部大学卒業生も含めた若手社員が囲んで1時間以上座談会を行い、働きやすさ、チャレンジャーとして挑む姿勢などを身近に感じるなど、学生達にはより働き方を想像できる場所になった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 工場見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 OBを含めた座談会</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3 工場見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4 見学者と引率者</p> </div> </div>		

## (5) フィールド活動@ぎふ







## フィールド活動@ぎふ 報告書

実施日	2017年 12月 9日（土）～ 10日（日）		
関係先企業名	土岐川・庄内川 森の健康診断実行委員会（市民団体）		
参加者	応用生物学部 3・4年生 生命健康科学部 3年生 他	参加人数	29名（うち引率 1名）
引率者氏名	上野 薫（応用生物学部 環境生物科学科 准教授）		
内容	<p>■開催場所：中部大学恵那研修センター</p> <p>■スケジュール</p> <p>1日目</p> <p>10:00 恵那研修センター集合、趣旨説明</p> <p>10:30 シン肉部位の観察、豚との比較、試食会（兼昼食）、イノシシ猟と肉の利用（村上氏）の紹介、片づけ</p> <p>14:00 恵那キャンパス内散策、イノシシ痕の観察、人工林の観察・調査</p> <p>16:00 恵那研修センター第4研修室で講義 各チームでプロジェクト提案の作成開始</p> <p>18:00 夕食（弁当の配送）・風呂</p> <p>19:30 グループワーク</p> <p>2日目</p> <p>7:30 朝食、部屋掃除、チェックアウト、</p> <p>9:30 学生発表会</p> <p>10:30 意見交換会、移動</p> <p>12:00 三郷コミュニティーセンターにて昼食</p> <p>13:30 学びのふりかえり、共有、学生交流</p> <p>16:00 閉会 挨拶と集合写真、片づけ</p> <p>16:30 現地解散（12月中に各自レポート提出を完了）</p> <p>以上のスケジュールにて、プログラムを実施。</p> <p>地元猟友会等による生の問題提起および五感による現場把握により、地域の課題解決に向けて何が重要なのかを、参加学生はしっかり感じていたようである。加えて、コンセンサス力、問題把握力も向上させたと思われる。</p>		



2. 活動報告<学内プログラム>

フィールド活動@ぎふ 報告書

実施日	2018年 2月 16日 ( 金 )		
訪問先企業名	高山市役所、現地見学		
参加者	食品栄養科学科管理栄養科学専攻 1・2・3年生	参加人数	13名 (うち引率 1名)
引率者氏名	小川 宣子 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授)		
内容	<p>1) 高山市の活性化に向けての取り組みの現状と課題を理解する</p> <p>①講義1：学生が高山市の課題を考え、その課題解決を考えるために、今回は、高山市商工観光部商工課から高山市の活性化に向けての取り組みの現状と課題についてお話しをお聞きした。</p> <p>②講義2：森瀬一幸客員教授より、高山の背景を知るために高山の歴史と文化について講義を受けることができた。</p> <p>③現場見学：高山市の企業の実態について駄菓子製造現場を見学し、企業の方からの取り組みや課題についてお話しをいただいた。</p> <p>2) 高山市の文化を理解する。</p> <p>高山市の生活の背景にある文化を体験するため、町の成り立ちを図書館長から図書館からの街並みを見ながら説明をうけ、高山の風土に即した暮らし方についてお話を伺った。</p> <p>3) 高山市の課題と解決方法について学生がそれぞれ提案した内容を高山市商工課に提出した。</p> <p>伝承されている高山駄菓子の製造現場を見学し、高山における課題の抽出や中小企業の取組みを理解することができた。また、図書館長から、高山の町および住民の生活について、説明を受けた。森瀬客員教授の案内により、高山市街地を散策し、高山市の歴史や町の成り立ちについて学ぶことができた。この体験から地域や地域産業の活性化に向けての課題解決に向け、大学生が取り組むことができることを考える機会となったが、これが自分達が住む地域についても風土・歴史・文化を理解した上で、地域活性化に自分達が何ができるかを考え、実践にまでつながることを期待する。</p>		
			

**(6) 地域活性化リーダーポスター発表会**



## 第2回 地域活性化リーダーポスター発表会

1. 日時： 2018年2月7日（水） 午後2時50分～午後3時15分

2. 会場： 中部大学 不言実行館 2階 スチューデントcommons

3. スケジュール：

**開会挨拶** 松尾 直規（COC地域連携教育研究センター長）

**学生によるポスター発表** （地域活性化リーダー候補学生）

生命健康科学部スポーツ保健医療学科 3年 山田 健太「信頼される行政マンへ」

**閉会挨拶** 倉根 隆一郎（COC地域連携教育研究センター副センター長）



※地域創成メディエーター学生発表会と同時開催



**(7) 学内企業説明会「岐阜県企業の日」**





## 学内企業説明会「岐阜県企業の日」

1. 開催日時： 平成 30 年 3 月 5 日（月） 午前 10 時 00 分～午後 12 時 30 分
2. 開催場所： 中部大学 三浦幸平メモリアルホール
3. 開催方法： ブース形式（1 企業 1 ブース）計 44 社



### 参加企業一覧（50音順）

番号	企業名	業種
1	アサヒフォージ	自動車・輸送機器・関連
2	アピ	食品・食料
3	安部日鋼工業	総合(土木・建築)
4	市川工務店	総合(土木・建築)
5	岩戸工業	自動車・輸送機器・関連
6	A P Cエアロスペシャルティ	自動車・輸送機器・関連
7	恵那市役所	公務(地方)
8	エリエールパッケージング印刷 岐阜工場	パルプ・製紙・紙製品
9	大垣西濃信用金庫	信用金庫・信用協同組合
10	オーツカ	繊維工業
11	各務原市役所	公務(地方)
12	カケフホールディングス	金属製品・金属加工品
13	岐セン	繊維製品・衣料
14	岐阜愛知電機	電気機械・照明
15	岐阜県	公務(地方)
16	共立コンピュータサービス	ソフトウェア・情報処理・情報サービス
17	協和ダンボール	パルプ・製紙・紙製品
18	クラレプラスチック	プラスチック製品
19	三進	コンサルタント・設計事務所

### 参加企業一覧（50音順）

番号	企業名	業種
20	ジーエフシー	食品・飲料
21	シーシーアイ	化学・医療・化粧品
22	生活協同組合コープぎふ	協同組合・郵便局
23	西濃建設	総合(土木・建築)
24	セイノー情報サービス	ソフトウェア・情報処理・情報サービス
25	関ヶ原製作所	一般機械・産業機械
26	大進精工	その他専門サービス(デザイン・機械設計等)
27	大同コンサルタンツ	コンサルタント・設計事務所
28	大日本土木	総合(土木・建築)
29	多治見市役所	公務(地方)
30	チューキョー	印刷・印刷関連サービス
31	中部エクストロン	プラスチック製品
32	東海化成工業	自動車・輸送機器・関連
33	徳田工業	自動車・輸送機器・関連
34	中日本ダイカスト工業	非鉄金属
35	ナベヤ	一般機械・産業機械
36	日晃オートメ	一般機械・産業機械
37	パールマネキン	物品レンタル・物品リース
38	文溪堂	出版・新聞
39	文晶堂	一般機械・産業機械
40	丸順	自動車・輸送機器・関連
41	九嘉工業	自動車・輸送機器・関連
42	水甚	繊維製品・衣料
43	安田	総合
44	矢橋ホールディングス	税理・会計・特許・経営コンサルタント

※企業名は株式会社等を略して掲載しています。

### 3. 活 動 報 告

#### < 5 大学共通プログラム >

##### (1) サマースクール





COC+参加大学共通プログラム

# サマースクール In 西濃

2017  
9/5(火)6(水)7(木)

ミ  
ッ  
シ  
ヨ  
ン  
は  
岐  
阜  
県  
西  
濃  
圏  
域  
プ  
ロ  
デ  
ュ  
ー  
ス  
地  
域  
に  
ひ  
と  
を  
呼  
ぶ  
プ  
ラ  
ン  
を  
考  
え  
る

岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加を試み、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを各大学において実施しております。その一環として、大学間共通のサマースクールを岐阜県西濃圏域で開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

参加大学 | 岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学 協力校 | 岐阜経済大学

**※この「サマースクール」は、中部大学認定 [地域活性化リーダー] 資格取得に必須です**

**参加費**

**9,000円** 当日徴収します  
(2泊分の宿泊費、朝食2回、昼食2回、夕食2回込)

**持ち物**

洗面用具、筆記用具、健康保険証(コピー可)、初日の昼食

※宿泊先で購入できるものは飲み物のみです。  
タオル、ドライヤー等の備え付け備品はございませんので各自持参願います。

**集合**

8時 J R 金山駅、または9時 J R 岐阜駅(予定)。

※バスで移動します。

1日目	10:00~12:00 オリエンテーション(於・岐阜経済大学) 12:00~18:00 各コース毎にフィールドワーク 18:00~19:00 交流会など
2日目	9:00~18:00 グループワーク (中間発表、ゲスト講師との交流を予定)
3日目	9:00~12:00 成果発表会 12:00~14:00 昼食・振り返り バスで移動(15時岐阜駅着、16時JR金山駅着)

**参加人数**

10名程度  
(合計50名程度)

**申込締切**

7月14日(金)

※先着順  
定員になり次第締め切ります。

**<テーマ> 西濃圏域のプロデュース**

ねらい : 各地域が有する資源に着目し、その魅力をPRする方法を考察する		
A.大垣コース	B.養老コース	C.揖斐川コース

**研修拠点**

大垣市かみいしづ  
緑の村公園奥養老  
大垣市上石津町上多良  
前ヶ瀬入会1-1

※コース決定後に事前学習などの詳細をご連絡いたします。

**【申込書】**

**7月14日申し込み締切**

必要事項を記入し、中部大学 地域連携教育研究推進部(16号館3階)まで提出ください。

または、内容をメール(plus@office.chubu.ac.jp)に記載し、申し込みいただいても構いません。

(①氏名 ②性別 ③学年 ④学籍番号 ⑤学部 ⑥携帯電話 ⑦メールアドレス ⑧希望コース ⑨行きの乗車場所 ⑩帰りの降車場所 ⑪その他)

① 氏名		② 性別		③ 学年	
④ 学籍番号		⑤ 学部			
⑥ 携帯電話		⑦ メールアドレス			
⑧ 希望コース (A,B,C,Dを記入)	第一希望: _____ 第二希望: _____ (A.大垣コース B.養老コース C.揖斐川コース D.どのコースでも可) ※コースの希望がない場合は、第一希望にDのみ記入してください				
⑨ 行きの乗車場所 (1か所選択)	J R 金山駅・J R 岐阜駅		⑩ 帰りの降車場所 (1か所選択)	J R 金山駅・J R 岐阜駅	
⑪ その他 (アレルギーや配慮事項)					

お問い合わせ:中部大学 地域連携教育研究推進部(16号館3階) ☎:0568-51-1763 ✉:plus@office.chubu.ac.jp

## サマースクールの様子

平成 29 年 9 月 5 日～7 日（2 泊 3 日の合宿形式）

大学混成チームで課題に取り組む。

テーマ「西濃圏域のプロデュース」5 大学 45 名の学生が参加。（中部大学 6 名）

### <大垣コース>

「関が原の戦い」の際に石田三成が入城し、西軍の拠点地となった「大垣城」や、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた結びの地である大垣に関する歴史の考察と、大垣市の商店街の活性化事例により、西濃圏域の観光振興に向けた取り組みを考えました。

### <養老コース>

養老の滝などの観光資源が集まる養老公園は、毎年 100 万人が訪れることに加え、養老町は全国でも数少ない元号を起源とする町で、歴史・文化・自然と多くの地域資源を有します。養老鉄道、養老天命反転地等の魅力を生かす提案を考えました。

### <揖斐川コース>

伊吹山や揖斐峡など豊かな自然に抱かれる揖斐川町では、30 周年を迎える「いびがわマラソン」や、複合型音楽フェス「揖斐川ワンダーピクニック」等、参加型イベントが盛ん。最近では絶景スポット「天空の茶畑」が SNS で話題です。揖斐の歴史や町並みに触れ、体験型観光を考察し、考えました。



## サマースクールの様子



オープニング



グループワーク



中間発表



発表会



発表会



振り返り



集合写真



## サマースクール 事前事後アンケート

2016年9月7日

コース：恵那・多治見・中津川（いずれかに○）

所属： 大学 学部 年 氏名： 男・女

次の35項目について、現在の自分について当てはまると思う番号の欄に○を記入してください。

(4：非常に当てはまる、3：やや当てはまる、2：あまり当てはまらない、1：まったく当てはまらない)

	4	3	2	1
Q1				
Q2				
Q3				
Q4				
Q5				
Q6				
Q7				
Q8				
Q9				
Q10				
Q11				
Q12				
Q13				
Q14				
Q15				
Q16				
Q17				
Q18				
Q19				
Q20				
Q21				
Q22				
Q23				
Q24				
Q25				
Q26				
Q27				
Q28				
Q29				
Q30				
Q31				
Q32				
Q33				
Q34				
Q35				

### 3. 活動報告<5大学共通プログラム>

#### サマースクール前後での質問紙調査得点の比較結果について

中部大学 西垣景太

COC プラスの事業で5大学の50名の学生が、2017年9月5日から7日までの3日間行われたサマースクールに参加した。その前後の意識の変化について、「クリシン」「隠れた設定」「議論の堅さ」「議論の際の態度」「チーム貢献・態度」「行動力の変化」「社会性」「人生観」「将来感」以上の9因子35項目による質問紙調査による得点を分析した。分析対象は、参加した50名の学生のうち、前後の回答に不備のなかった44名を有効回答とした。分析は対応ありのt検定で前後得点の比較検討をおこなった(表1)。

その結果、「行動力の変化」以外の8因子と合計点で有意差が認められた。サマースクール前の得点よりもサマースクール後の得点の方が明らかに向上していることが示された。前後の集団としては、サマースクールへの参加によってこれらの意識が高まったと考えられる。

表1. 参加者全体のサマースクール前後の得点比較 t検定結果(n = 44)

項目(最大点)	サマースクール前		サマースクール後		t値	p値
	M	SD	M	SD		
クリシン(15)	9.05	1.80	9.77	1.89	2.53	0.015 *
隠れた設定(15)	8.20	1.61	9.23	1.85	3.46	0.001 **
議論の堅さ(15)	8.11	1.98	9.14	1.96	3.31	0.002 **
議論の際の態度(30)	18.18	2.32	19.66	3.28	3.79	0.000 ***
チーム貢献・態度(15)	9.00	1.64	9.57	1.78	2.44	0.019 *
行動力の変化(30)	16.14	2.46	16.84	3.14	1.50	0.140
社会性(15)	8.25	1.16	8.77	1.58	2.44	0.019 *
人生観(25)	13.75	2.88	15.00	3.14	3.31	0.002 **
将来感(15)	8.70	1.39	9.32	1.88	2.64	0.012 *
合計	99.39	11.64	107.30	15.83	4.28	0.000 ***

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

また、大垣・養老・揖斐川の3コースに分かれて見学した内容を、発表に向けてまとめていくためのグループを考察グループとして活動していた。各考察グループは5人から6人で構成され、全体で9グループに分かれた。そのうち3グループずつで教室が分かれ、各教室に教員がついてまとめの作業を行った。期間中多くの作業をこの各教室で実施したため、3教室ごとによるサマースクール前後での比較を行った(表2)。

1から3班では「隠れた設定」のみの1因子、4から6班では「議論の際の態度」「チーム貢献・態度」「人生観」の3因子、7から9班では「議論の堅さ」「議論の際の態度」「社会性」「人生観」の4因子と合計点で有意差が認められ、サマースクール前よりもサマースクール後の方が、得点が向上していることが明らかになった。各教室の違いから、グループワークの進行の仕方などに違いも見られたのかもしれない。考察班9班の各グループでの比較は、有効回答が4人のグループもあり、少人数になることから今回は結果を示していない。

表2. 考察グループごとのサマースクール前後得点比較 t検定結果

項目	考察1・2・3班(n=15)				考察4・5・6班(n=15)				考察7・8・9班(n=14)			
	前 M SD	後 M SD	t値	p値	前 M SD	後 M SD	t値	p値	前 M SD	後 M SD	t値	p値
クリシン	8.60 1.64	9.40 2.06	2.10	0.054	9.20 2.15	10.00 2.00	1.33	0.206	9.36 1.60	9.93 1.64	1.10	0.293
隠れた設定	7.67 1.35	9.27 1.71	3.36	0.005 **	8.47 1.81	8.93 2.19	0.82	0.425	8.50 1.61	9.50 1.70	2.13	0.053
議論の堅さ	7.80 1.52	9.00 1.77	2.04	0.060	8.93 2.43	9.33 2.47	0.78	0.450	7.57 1.70	9.07 1.64	3.07	0.009 **
議論の際の態度	18.20 2.27	19.40 3.85	2.11	0.123	17.73 2.19	19.13 3.56	2.30	0.037 *	18.64 2.56	20.50 2.18	2.59	0.023 *
チーム貢献・態度	8.73 1.53	9.20 1.78	1.13	0.277	9.07 1.83	10.13 1.96	2.98	0.010 *	9.21 1.63	9.36 1.55	0.33	0.745
行動力の変化	15.53 2.72	16.73 3.33	1.22	0.244	16.07 2.09	15.73 2.46	0.56	0.582	16.86 2.51	18.14 3.30	1.63	0.126
社会性	7.87 1.25	8.00 1.31	0.40	0.698	8.13 0.74	8.73 1.75	1.24	0.237	8.79 1.31	9.64 1.28	3.71	0.003 **
人生観	13.47 2.88	14.27 2.37	1.23	0.238	13.87 2.36	15.40 3.72	2.16	0.049 *	13.93 3.52	15.36 3.27	2.28	0.040 *
将来感	8.40 1.18	8.60 1.55	0.64	0.531	8.80 1.27	9.53 2.03	1.70	0.111	8.93 1.73	9.86 1.92	2.01	0.066
合計	96.27 11.62	103.87 17.30	2.01	0.064	100.27 11.54	106.93 17.04	2.12	0.052	101.79 11.86	111.36 12.76	3.57	0.003 **

※網掛けは有意差が認められた因子

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

**(2) ぎふCOC+事業推進コンソーシアム  
成果発表会**



平成29年度ぎふCOC+事業推進コンソーシアム

# 成果発表会

**2017.12.16 SAT**  
**13:30-16:30****会場** 岐阜大学 全学共通教育棟 多目的ホール**対象** ● COC+事業に興味関心のある企業及び自治体関係者  
● 教育プログラムに関心のある大学生・高校生

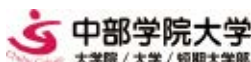
ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、平成27年度に岐阜大学が主幹校となって文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に採択されたことに伴って組織されました。大学としては岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学の5大学が参画しています。

各大学では共通の目標・ステップに基づいた教育プログラムを実施しており、主に岐阜県をフィールドとして企業や自治体と協働しながら活動をしています。今回は各大学で学ぶ学生たちがその学修成果を発表します。

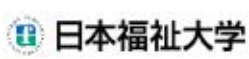
- 13:00 — 受付  
 13:30 — 挨拶  
 13:40 — COC+事業概要説明  
 14:00 — 学生発表 第一部  
 (岐阜大学・中部学院大学・中部大学)  
 15:00 — 学生発表 第二部  
 (日本福祉大学・名古屋学院大学・参加大学共通プログラム)  
 16:00 — 講評・閉会

**定員200名****参加無料**申込不要です。  
お気軽にご参加  
ください!

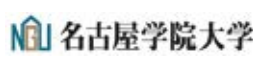
※参加大学共通プログラム…コンソーシアムに参画する5大学と協力校の岐阜経済大学が共通して実施するプログラム。  
企業見学会・サマースクール・成果発表会を実施しており、今回はサマースクールについて発表します

国立大学法人  
岐阜大学中部学院大学  
大学院 / 大学 / 短期大学部

中部大学



日本福祉大学



名古屋学院大学



文部科学省

**地(知)の拠点**

岐阜大学 地域協学センター

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1 TEL.058-293-3880  
E-Mail ccsc@gifu-u.ac.jp 担当/助教 塚本明日香**同日  
開催****岐阜大学フェア 岐阜大学構内**

## ぎふCOC+事業推進コンソーシアム 成果発表会の様子

日時： 2017年12月16日（土） 13時30分～16時30分

場所： 岐阜大学サテライトキャンパス 多目的ホール

### <プログラム>

- 13:30～ 開会の挨拶  
ぎふCOC+事業統括事業推進コーディネーター、羽島市副市長 成原 嘉彦
- COC+事業概要説明  
岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一
- 14:00～ 学生による成果報告
- 16:00～ 講評  
ぎふCOC+事業外部評価委員、(株)技研サービス統括顧問 猿渡 要司
- 閉会挨拶  
中部大学生命健康科学部准教授、commonsセンター長 伊藤 守弘



発表の様子 中部大学生命健康科学部 3年 曾我航平  
テーマ 「地域活性化リーダーを目指して」



会場の様子



閉会挨拶

### **(3) 岐阜県内の優良企業研究セミナー**





# 参加企業 **42** 社

参加対象は、就活期を今後迎える  
すべての大学生等の皆さん！  
(大学1~3年生、大学院生、第二新卒および短大生など)  
**企業担当者から直接話を聞ける  
貴重な機会です。**



# 岐阜県内の優良企業 研究セミナー

**本学主催**

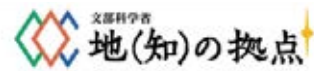
## 岐阜でステップ×岐阜にプラス

平成30年  
日時 **2月19日**(月)  
13:00~17:00

会場 **じゅうろくプラザ 2階 ホール**  
住所 岐阜市橋本町1丁目10番地11  
TEL 058-262-0150  
**予約不要 入退場自由 スーツ着用不要**

※本セミナーはキャリア教育の一環として開催するもので、参加の有無が採用選考のプロセスに影響することはありません。

文部科学省 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)  
「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」



(事業協働機関)

**岐阜大学**  
058-293-2147  
(キャリアセンター就職支援室)

**中部学院大学**  
0575-24-2216  
(キャリア支援センター事務課)

**中部大学**  
0568-51-4184  
(キャリア支援課)

**日本福祉大学**  
0569-87-2321  
(キャリア開発課)

**名古屋学院大学**  
052-678-4090  
(キャリアセンター)

岐阜県/一般社団法人 岐阜県経営者協会/株式会社 十六銀行/株式会社 大垣共立銀行/株式会社 マイナビ/岐阜経済大学(協力校)

3. 活動報告<5大学共通プログラム>

## 参加企業一覧(50音順)

番号	会社名	業種
1	アピ	製造業（食品）
2	揖斐川工業グループ	製造業（建築資材）
3	イビデン	製造業（自動車部品）
4	イマオコーポレーション	製造業（金属製品）
5	岩田製作所	製造業（電気機械器具）
6	インフォファーム	情報通信業
7	内堀醸造	製造業（食品）
8	榎本ビーエー	製造業（航空宇宙関連）
9	大垣共立銀行	金融業
10	特許業務法人オンダ国際特許事務所 オンダテクノ	特許・コンサルティング
11	オンダ製作所	製造業（配管資材）
12	カイインダストリーズ	製造業（刃物）
13	社会福祉法人 岐阜県福祉事業団	福祉
14	岐阜新聞社	マスコミ
15	岐阜信用金庫	金融業
16	ぎふ農業協同組合（JA ぎふ）	サービス（農業）
17	岐阜プラスチック工業	製造業（プラスチック）
18	共立コンピューターサービス	情報通信業
19	クラレプラスチック	製造業（プラスチック）
20	KVK	製造業（一般機械）
21	サラダコスモ	製造業（食品）
22	サン・ワード	サービス（ブライダル）
23	十六銀行	金融業
24	新日本ガス	ガス業
25	セイノー情報サービス	情報通信業
26	大進精工	サービス（総合エンジニアリング）
27	高砂工業	製造業（熱処理）
28	ツキオカフィルム製菓	製造業（化学）
29	テクノア	情報通信業
30	テルモ・クリニカルサプライ	製造業（医療機器）
31	電算システム	情報通信業
32	天龍ホールディングス（天龍グループ）	製造業（輸送機器等）・建設・物流
33	トーカイ	商社（医療・健康・福祉）
34	鍋屋バイテック	製造業（金属製品）
35	日本耐酸壺工業	製造業（ガラス瓶）
36	ファミリーストアさとう	小売業
37	文溪堂	出版
38	本陣平野屋	宿泊業
39	ミズノテクニクス	製造業（スポーツ用品）
40	未来工業	製造業（電気設備資材）
41	森松工業	製造業（金属製品）
42	医療法人 和光会	医療・福祉

※企業名は株式会社等を略して掲載しています。



